



Osaka
University
Forum
on
China

轉換期中国政治論説記事索引
(1976-1982)

田中仁・和田英男・岡野翔太 編

OUFC
BOOKLET
vol.13
2019/4

OUFC BOOKLET
Vol.13

轉換期中国政治論説記事索引
(1976-1982)

田中仁・和田英男・岡野翔太 編

目 次

- はしがき (1)
- 朝日ジャーナル (3)
- 潮 (17)
- 月刊社会党 (22)
- 現代 (月刊現代) (25)
- 現代中国 (29)
- 現代の眼 (30)
- 国際問題 (36)
- 思想の科学 (38)
- 自由 (41)
- 諸君 (50)
- 正論 (54)
- 世界 (60)
- 前衛 (65)
- 中央公論 (67)
- 中国研究 (76)
- 中国研究月報 (92)
- 展望 (96)
- 東亜 (98)
- 日本及日本人 (113)
- 文藝春秋 (115)
- 流動 (122)
- 著者索引 (125)

はしがき

本書は、台湾・中央研究院主題研究計画「國共兩黨的比較研究」（代表：黄自進・近代史研究所研究員，2018-2020）における分支研究「當代中國政治的轉變與毛澤東思想的再定義」（田中仁，当代中国政治の転換と毛沢東思想の再定義）の成果の一部である。

この分支研究は、1977年初め華国鋒指導部が提起した「二つのすべて」とそれをめぐる「真理の基準」論争から「歴史決議」にいたる現代中国政治における毛沢東経路の発生過程を復元することを目的とする。今日の私たちにとっての自明の事がらである中共一党統治のシンボルとしての「毛沢東」は、当時の人々にとって決して自明の事がらではなかった。本研究では、当時の「毛沢東」をめぐるさまざまな語りについて、帰趨の定まらない、さまざまな方向に向けて開かれた語りであったことを前提として、整理・復元を試みる。

同研究の基礎作業として、ここでは、1976年1月から1982年12月にいたる時期の日本メディアが伝えた中国情報を調査した。調査対象としてリストアップしたのは下記の雑誌である。

- (1) 総合雑誌：朝日ジャーナル，現代，現代の眼，思想の科学，諸君，正論，世界，中央公論，展望，日本及日本人，文藝春秋，流動，
- (2) 政党機関誌など：潮，月刊社会党，自由，前衛
- (3) 国関係学術誌など：現代中国，国際問題，中国研究，中国研究月報，東亜

(田中仁)

- 真の「人間解放」とは何か：中国（継続革命）の普遍的意義（山内一男）
- 19 卷 2 号（1977 年 1 月 14 日）
「四人組」批判は林彪事件に通ずる：華国鋒体制の北京で考える（安藤彦太郎）
- 19 卷 3 号～4 号 なし
- 19 卷 5 号（1977 年 2 月 4 日）
中ソ和解のカギ握る鄧小平復活問題（中嶋嶺雄）
- 19 卷 6 号～12 号 なし
- 19 卷 13 号（1977 年 4 月 1 日）
独自の道を模索する中国（宇野重昭）
- 19 卷 14 号（1977 年 4 月 8 日）
忘れ去られた台湾の政治犯：香港左系誌『七十年代』から（夏洛，陳郷）
- 19 卷 15 号 なし
- 19 卷 16 号（1977 年 4 月 22 日）
中国社会主義の新しい相貌：鄧小平復活問題の背景と展望（伊藤斉，野上正，吉田実）
思想の運命と中国民衆（竹内実）
問われる文化大革命の行方（徳田教之）
- 19 卷 17 号～21 号 なし
- 19 卷 22 号（1977 年 5 月 27 日）
「四人組」追放と中国舞台芸術：来日した天津歌舞団を観て（河内四郎）
- 19 卷 23 号 なし
- 19 卷 24 号（1977 年 6 月 10 日）
華国鋒体制下に復興する中国農業（団野信夫）
- 19 卷 25 号～31 号 なし
- 19 卷 32 号（1977 年 8 月 5 日）
鄧小平復活の大いなる矛盾：次のステップは何か（中嶋嶺雄）
建軍 50 年：素顔の中国人民解放軍（古川万太郎）
- 19 卷 33 号～34 号 なし

19 卷 35 号 (1977 年 9 月 2 日)

【座談会】中国共産党大会、「安定団結」の道 (近藤竜夫, 野上正, 吉田実)

十一全大会と中国経済の動向 (波多野宏一)

19 卷 36 号～52 号 なし

20 卷 1 号～2 号 なし

20 卷 3 号 (1978 年 1 月 20 日)

「日中」に踏み出す福田首相の打算と命運 (山下隆一)

中国の「詩と真実」: 街頭と工場から (山本明)

20 卷 4 号 (1978 年 1 月 27 日)

「米中国交正常化は技術交流から」ケネディ米上院議員, 本誌記者に語る

20 卷 5 号 なし

20 卷 6 号 (1978 年 2 月 10 日)

障害は常に国内にある (田川誠一)

覇権問題とはなにか: 歴史的教訓と日本の選択 (吉田実)

中ソ等距離の現実的外交こそ必要 (中川融)

20 卷 7 号 (1978 年 2 月 17 日)

中華人民共和国の成立 (竹内実)

20 卷 8 号 なし

20 卷 9 号 (1978 年 3 月 3 日)

“日中経済安保”が巻き起こした波紋 (斎藤一郎)

20 卷 10 号 (1978 年 3 月 10 日)

中国の大学入試を見る: 新しい社会主義像の模索 (上) (安藤彦太郎)

“安定した社会”づくり: 中国の第五期全人代の課題

20 卷 11 号 (1978 年 3 月 17 日)

中国の「教育革命」のゆくえ: 新しい社会主義像の模索 (下) (安藤彦太郎)

20 卷 12 号～16 号 なし

中国近代化のカギを握る農業の後進性克服（ニューヨークタイムズ特約）

21 卷 8 号（1979 年 3 月 2 日）

日米に試練，中国のベトナム侵入

激動，中国党会議の舞台裏（上）（香港『七十年代』誌 2 月号から）

21 卷 9 号（1979 年 3 月 9 日）

政治戦争の色合いを強める中越紛争

激動，中国党会議の舞台裏（下）（香港『七十年代』誌 2 月号から）

21 卷 10 号（1979 年 3 月 16 日）

骨肉相食む中・越の“論理”（陸井三郎，田所竹彦）

21 卷 11 号～13 号

なし

21 卷 14 号（1979 年 4 月 13 日）

修正迫られた中国の近代化計画（大森繁夫）

21 卷 15 号（1979 年 4 月 20 日）

中国の経済改革が提起する問題（都留重人）

21 卷 16 号（1979 年 4 月 27 日）

対ソ関係改善の可能性（小島朋之）

「米ソ」をなぞるか中ソ関係（白井久也）

21 卷 17 号（1979 年 5 月 4 日）

不信消えぬ中越会談

21 卷 18 号～21 号

なし

21 卷 22 号（1979 年 6 月 8 日）

中ソ対立下の平衡感覚（大森繁雄）

21 卷 23 号（1979 年 6 月 15 日）

新段階を迎えた日中貿易（相良保彦）

CIA 報告全文 民間工業技術の導入をはかる毛以後の中国

役者は代わっても芝居は続く（エンディミオン・ウィルキンソン）

21 卷 24 号（1979 年 6 月 22 日）

中ソ会談への道

中ソ和解はありうる（大森繁雄）

周恩来：戦いの日々と肖像①黙して語らず（松野谷夫）

22 卷 2 号（1980 年 1 月 18 日）

周恩来：闘いの日々と肖像②総理が死んだ日（松野谷夫）

22 卷 3 号（1980 年 1 月 25 日）

周恩来：闘いの日々と肖像③天安門事件（松野谷夫）

22 卷 4 号（1980 年 2 月 1 日）

周恩来：闘いの日々と肖像④生い立ち（松野谷夫）

22 卷 5 号（1980 年 2 月 8 日）

周恩来：闘いの日々と肖像⑤日本・フランス留学（松野谷夫）

22 卷 6 号（1980 年 2 月 15 日）

周恩来：闘いの日々と肖像⑥その妻 鄧穎超（松野谷夫）

22 卷 7 号（1980 年 2 月 22 日）

周恩来：闘いの日々と肖像⑦軍人としての側面（松野谷夫）

ある離婚裁判にみる中国の近代化と新法制（原後山治，針生誠吉）

解説：“法治元年”中国の苦悩（花野敏彦）

22 卷 8 号（1980 年 2 月 29 日）

周恩来：闘いの日々と肖像⑧江西の主役（松野谷夫）

22 卷 9 号（1980 年 3 月 7 日）

周恩来：闘いの日々と肖像⑨長征（松野谷夫）

22 卷 10 号（1980 年 3 月 14 日）

周恩来：闘いの日々と肖像⑩遵議会議（松野谷夫）

22 卷 11 号（1980 年 3 月 21 日）

周恩来：闘いの日々と肖像⑪西安事変（松野谷夫）

文革に決着つけた中共五中全会（吉田実）

22 卷 12 号 　　　　　　　　　　　なし

22 卷 13 号（1980 年 3 月 28 日）

周恩来：闘いの日々と肖像⑫（松野谷夫）

22 卷 14 号（1980 年 4 月 4 日）

- 周恩来：闘いの日々と肖像⑬建国（松野谷夫）
鄧小平の後継と目される趙紫陽
- 22 卷 15 号（1980 年 4 月 11 日）
周恩来：闘いの日々と肖像⑭高岡事件（松野谷夫）
鄧小平副主席内部報告「当面の情勢と任務」全文（上）
- 22 卷 16 号（1980 年 4 月 18 日）
鄧小平副主席内部報告「当面の情勢と任務」全文（下）
- 22 卷 17 号
なし
- 22 卷 18 号（1980 年 5 月 2 日）
四人組追放後の中国文芸界（宇田禮）
- 22 卷 19 号（1980 年 5 月 9 日）
周恩来：闘いの日々と肖像 メモから（松野谷夫）
- 22 卷 20 号（1980 年 5 月 16 日）
周恩来：闘いの日々と肖像⑮多面的性格（松野谷夫）
- 22 卷 21 号（1980 年 5 月 23 日）
周恩来：闘いの日々と肖像⑯非情ということ（松野谷夫）
- 22 卷 22 号
なし
- 22 卷 23 号（1980 年 6 月 6 日）
周恩来：闘いの日々と肖像⑰その人脈（松野谷夫）
- 22 卷 24 号（1980 年 6 月 13 日）
政治色の強かった華国鋒来日
周恩来：闘いの日々と肖像⑱国際人（松野谷夫）
- 22 卷 25 号（1980 年 6 月 20 日）
中国映画発見の旅（佐藤忠夫）
周恩来：闘いの日々と肖像⑲浮沈（松野谷夫）
- 22 卷 26 号（1980 年 6 月 27 日）
周恩来：闘いの日々と肖像⑳二月逆流（松野谷夫）
- 22 卷 27 号（1980 年 7 月 4 日）
周恩来：闘いの日々と肖像㉑武漢事件（松野谷夫）

- 「核」のボタンに指がかかるとき⑤ “原爆外交”の危険性 (水沢透)
- 24 卷 35 号 (1982 年 8 月 27 日)
中国を知ろうとする文教族はいるのか (戴国輝)
- 24 卷 36 号
なし
- 24 卷 37 号 (1982 年 9 月 10 日)
はっきりした文部省の「支那派遣軍・朝鮮総督府」的感觉 (山中恒)
- 24 卷 38 号 (1982 年 9 月 17 日)
中国共産党 12 全大会
- 24 卷 39 号～42 号
なし
- 24 卷 43 号 (1982 年 10 月 22 日)
ニュースセンサー：中ソ国境線
- 24 卷 44 号～46 号
- 24 卷 47 号 (1982 年 11 月 19 日)
ニュースセンサー：中国全国人民代表大会
- 24 卷 48 号 (1982 年 11 月 26 日)
特派員リレーエッセイ：北京、もみじ狩り (田所竹彦)
- 24 卷 49 号～50 号
なし
- 24 卷 51 号 (1982 年 12 月 17 日)
中国の焦りと成熟と
- 24 卷 52 号
なし

潮

1号(1952)～現在、東京：潮出版社
199号(1976.1)～284号(1982.12)
大阪大学附属総合図書館(調査：岡野翔太，2018年6月)

199号(1976年1月)

樹裕静而風不止<北京一千夫②>：懸案の派遣問題を中国の動の哲学から考える(吉田実)

200号(1976年2月)

国家要独立・民族要開放：ソ連のアジア進出，フォード訪中，東南アジアの情勢変化のなかで中国外交の新路線を探る(吉田実)

201号(1976年3月)

周恩来の死：悲しみを力に変えて 上野のサクラと神田の古本屋を愛した革命家(吉田実)

202号(1976年4月)

大寨への道：中国革命の原理を求めて 「農業は大寨に学べ」の意味するものは何か(吉田実)

203号(1976年5月)

なし

204号(1976年6月)

北京日本語放送について(吉村公三郎)

乱の中で治める：天安門事件の意味 走資派批判のうずの中の中国に何が起きたか(吉田実)

205号～209号

なし

210号(1976年11月)(国立国会図書館オンラインで確認)

“中国の紅い星” 逝く(三留理男)

遠方の二三の友と共にあるのみ(毛沢東会見記)(アンドレ・マルロー)

証言・私の毛沢東会見記（土川庄市）

これからの中国と世界（関寛治，吉田実，木村俊夫）

211号（1976年12月）

『北京政変』をどうとらえるか：謎に包まれた「北京政変」の底にあるもの（菊池昌典）

212号～216号 なし

217号（1977年6月）

【てい談】竹内好・武田泰淳：日本人の中国観 日本のなかの世界10（長田弘，高島通敏，鶴見俊輔）

218号～220号 なし

221号（1977年10月）

大乱から大治の時代へ：十一全回を終えた中国に何が起きているか（吉田実）

222号～223号 なし

224号（1978年1月）

中国について（桑原武）

225号～230号 なし

231号（1978年8月）

北京の涙 名優，趙丹との再会に十五年ぶりの訪中旅行（高峰秀子）
上海にて（水上勉）

232号（1978年9月）

日中平和友好条約に思う（森恭三）

233号（1978年10月）

ドキュメント日中平和友好条約 条約締結までのドラマ（吉田実）

234号（1978年11月）

中国外交雑感（森恭三）

235号（1978年12月） なし

236号（1979年1月）

北京のクーデター（左玉瑾，和田武史訳）

ブルース・リーの叫びは消えない（鈴木明）

237号（1979年2月）

日中貿易，わが耳を疑った経済人：経済協力を機に日本経済の体質改善を提案す（相良保彦）

238号（1979年3月）

心に残る人びと：清秋の思い出 趙樸初氏との出会い（池田大作）

239号（1979年4月）

なし

240号（1979年5月）

なぜ中越紛争なのか：紛争の原因と新しい平和の構図のための教訓（吉田実）

241号（1979年6月）

鄧穎超の十二日間：周恩来の遺志をついで来日した夫人の全記録（吉田実）

242号～245号

なし

246号（1979年11月）

中国『四人組公開裁判』に関する二つの報道 マスコミ日誌（新井直之）

247号（1979年12月）

なし

248号（1980年1月）

中国の近代化をじっくり観察してみれば 建て前論ではなく本音の部分を解明する（大谷健）

249号～250号

なし

251号（1980年4月）

中国の製鉄所めぐり（佐木隆三）

252号（1980年5月）

なし

253号（1980年6月）

心に残る人びと：中国作家協会第一副主席 巴金氏との出会い（池田大作）

254号（1980年7月）

華国鋒首相との一時間半（池田大作）

255号(1980年8月)

中国指導者の新条件 毛沢東と劉少奇の関係処理が求められている
(吉田実)

256号(1980年9月)

たった一人の戦争 中国で孤児となり祖国日本で逝った主婦の謎(吉田知子)

日中国交回復の功労者 松村謙三氏との出会い(池田大作)

257号(1980年10月) なし

258号(1980年11月)

趙紫陽ってどんな人? 中国三代目の首相に就任した男の実力と横顔
(吉田実)

北京大学 周培源学長との出会い 心に残る人びと(池田大作)

259号~261号 なし

262号(1981年3月)

ドキュメント物言わぬ中国の声:一つの中国 二つの香港 三つの鄧

263号~266号 なし

267号(1981年8月)

『大陸の花嫁』の孤独な帰郷 満州に渡り、敗戦後、中国に残留した彼女たちの三十年ぶりの故国(林郁)

268号(1981年9月)

善意で救えなかった中国残留孤児(本田靖春)
宋慶齡が死んで三人の女性が残った…(鈴木明)

269号(1981年10月)

中国旅行、ディスコでフィーバー
日中のはざままで泣く中国帰還者(本田靖春)

270号(1981年11月)

中国医療事情(佐藤玄二)

271号~273号 なし

274号(1982年3月)

鄧小平の変貌 民主の発揚を唱えた彼がなぜ抑圧を始めたか

275号～281号

なし

282号（1982年10月）

『侵略』を忘れぬ民衆は訪中団を見ていた 中国がなぜ強固に主張するかを肌で感じた旅（林郁）

ニッポン評判記 「教科書問題」に批判的な国外マスコミ

月刊社会党

創刊号 (1957.6) ～488号 (1996.1), 東京: 日本社会党中央本部機関紙局
229号 (1976.1) ～318号 (1982.12)

大阪府立中央図書館, 1976年の記事は第240号, 1977年の記事は第253号, 1978年の記事は第267号, 1979年の記事は第280号, 1980年の記事は第293号の総目次より確認 (調査: 和田英男, 2018年12月)

229号～230号 なし

231号 (1976年3月)

周恩来総理の思い出 (佐々木更三)

“周恩来の死”に思う (田英夫)

【インタビュー】中島健蔵氏に聞く 日中国交正常化につくされた周
総理 (編集部)

中ソでもたつく三木外交 (国際) (大島龍三)

232号 (1976年4月) なし

233号 (1976年5月)

日中平和友好条約の早期締結を (下平正一)

234号～238号 なし

239号 (1976年11月)

偉大な功績をたたえ日中平和友好条約に全力を (成田知己)

毛沢東主席のおもかげ (佐々木更三)

毛主席の思い出 (黒田寿男)

240号 (1976年12月)

中国の新たな政変 (国際) (大島龍三)

241号 (1977年1月)

【座談会】毛沢東後の中国と今後のアジア関係 (川田侃, 矢吹晋, 杉山
正三)

日中友好の今後の課題（市川誠）

中国の世界認識と外交路線（中嶋嶺雄）

現代中国の人民の生活（新井宝雄）

280号～286号 なし

287号（1980年7月）

【随想】私と延安（中村茂）

288号～290号 なし

291号（1980年11月）

【座談会】新しい“長征”の中国を訪れて（多賀谷真稔）

292号～294号 なし

295号（1981年臨時増刊）

【資料】内外の情勢と社会党の運動（社会主義理論センター学者報告）

296号～299号 なし

300号（1981年7月）

模索する中国の社会主義建設（矢吹晋）

301号～303号 なし

304号（1981年11月）

中国 雨と市場と苗代のころ（長岡弘芳）

305号～315号 なし

316号（1982年10月）

中国映画のこと（佐藤忠男）

317号（1982年11月） なし

318号（1982年12月）

初めての中国（福間知之）

性は？：軍はなぜ華国鋒主席を支持したか：人民解放軍の実力と幹部の顔ぶれ：華国鋒体制に不安はないか：鄧小平の復活はあるか：対日，米，ソ政策に変化はあるか：対日経済政策はどうなるか：中国の政治形態はどうなってるか：中国人民に動揺，混乱はあるか：壁新聞の書き手と使われ方は？：人民の生活，教育，結婚の実態は？（石川忠雄，西岡寺公一，柴田穂，藤堂明保，中嶋嶺雄）

1977年1月新年特大号

“カーター・華国鋒時代”の意味（浅野輔，伴野朗）

1977年2月号 無し

1977年3月号

毛沢東神話は崩壊しはじめた（勝田吉太郎）

1977年4月号 無し

1977年5月号

華国鋒対鄧小平の男の争い（柴田穂）

日米中韓連合もしソ連と戦わば（大和海山）

1977年6月号～1978年3月号 無し

1978年4月号

華国鋒・鄧小平その後の男の争い（柴田穂）

1978年5月号

中国人のころをつかむ法（水原明窓）

1978年6月号 無し

1978年7月号

中国と経済大密約！三菱グループ恐るべし（国頭義正）

1978年8月号

文芸復興機の中国（井上靖）

1978年9月号

皇太子ご夫妻が中国を訪問するとき（高橋紘）

日本をまきこむソ米中世界戦争の発火点はここだ（中村龍平，久住忠

男，若松重吾)

1978年10月号

タブーだった中国初耳情報 20 (高坂正堯) ほか
宦官，科挙と酔っぱらい (会田雄次，陳舜臣)

1978年11月号

はじまった鄧小平の時代 (柴田穂)
中国経済に幻想は禁物です (長谷川慶太郎)

1978年12月号

中国は開かれたか：北京の一週間 (江藤淳)

1979年1月新年号

なし

1979年2月号

米中を結んだ“仲人”の正体 (宇佐美滋)
毛沢東の晩年：すべては王朝の崩壊から始まった (中嶋嶺雄)

1979年3月号～4月号

なし

1979年5月号

日本をまきこむブレジネフと鄧小平の新戦争 (関野英夫，若松重吾)

1979年6月号～1980年6月号

なし

1980年7月号

【現代インサイド】華国鋒：手足をもがれたナンバーワンの前途は？

1980年8月号～10月号

なし

1980年11月号

趙紫陽は“鄧+華÷2”的人物 (新井宝雄)

1980年12月号～1981年2月号

なし

1981年3月号

【現代インサイド】鄧小平：と地方幹部の華国鋒派とどう対決するか

1981年4月号～5月号

なし

1981年6月号

「中ソ連合」工作で日本は孤立する (林丈人)

1981年7月号

なし

1981年8月号

【現代インサイド】中国共産党：鄧小平院政の前途にこれだけの不安

1981年9月号

二千万下放青年の反乱（林丈人）

1981年10月号～11月号 なし

1981年12月号

【現代インサイド】蔣経国：“モスクワ同窓生”鄧小平と女性密使で交渉？

1982年1月号～2月号 なし

1982年3月号

中国特権階級のあきれた実態（高木桂蔵）

1982年4月号～12月号 なし

現代中国

1号 (1951.6) ~ 現在, 東京: 日本現代中国学会

51号 (1976.8) ~ 56号 (1982.7)

現代中国学会ホームページより確認 (調査: 和田英男, 2018年5月)

51号 (1976年8月)

中国・朝鮮の現状と特質の根本的省察: 比較研究旅行報告 (針生誠吉)

52号 (1978年)

現代化の問題をめぐって (小島麗逸)

大学改革と“新生の事物” (斉藤秋男)

53号 (1979年)

なし

54号 (1980年)

建国30周年と近代化の矛盾 (小島麗逸)

中国の現代化と対外貿易 (内藤昭)

55号 (1981年)

今日における旧中国の人口理論の評価について (大塚博久)

現代化政策と法律学 (浅井敦)

まとめ「転換期の中国」の「転換」について (西村明)

劉少奇問題について (藤原康晴)

「国民経済発展10ヶ年計画」と調整政策 (平野絢子)

56号 (1982年7月)

六中全会歴史決議と中国社会主義の行方 (加々美光行)

表現の自立をめざす動き (吉田富夫)

「包産到戸」制の意味するもの (阪本楠彦)

憲法改正の問題点 (西村幸次郎)

中国における現代史研究の現況: 党史研究を中心に (安藤正士)

18 卷 2 号 (1977 年 2 月)

南京大虐殺は幻か (朝倉喬司)

18 卷 3 号 (1977 年 3 月) なし

18 卷 4 号 (1977 年 4 月)

中国マルクス主義とロシアナロードニキ (永野英身)

18 卷 5 号～6 号 なし

18 卷 7 号 (1977 年 7 月)

黙殺される在日台湾人 (嵯峨薫)

18 卷 8 号 (1977 年 8 月)

18 卷 9 号 (1977 年 9 月)

日中化学交流の課題を巡って (岬暁夫)

台湾人「皇軍兵」の不条理な戦後 (羽柴駿)

18 卷 10 号 (1977 年 10 月)

中国共産党一一全大会の画期性

18 卷 11 号～19 卷 1 号 なし

19 卷 2 号 (1978 年 2 月)

E・スノー：中国にかけた生と死 (松岡洋子)

19 卷 3 号～4 号 なし

19 卷 5 号 (1978 年 5 月)

中国は<転換>したのか：全人代と「三つの世界」論を巡って (蠟山
芳郎, 北沢正雄, 辻康吾)

19 卷 6 号 (1978 年 6 月)

成田一尖閣で一息ついた福田政権

19 卷 7 号～8 号 なし

19 卷 9 号 (1978 年 9 月)

中国対外戦略の亀裂：毛沢東路線と鄧小平, 江青, 華国鋒 (中村公省)

19 卷 10 号 (1978 年 10 月)

日中平和友好ブームと竹内好

19 卷 11 号 (1978 年 11 月)

文化大革命の彼方（辻康吾）

19 卷 12 号（1978 年 12 月）

日中平和友好条約，鄧小平来日：内外情勢の激動にとまどう「右翼」
（猪野健治）

20 卷 1 号（1979 年 1 月） なし

20 卷 2 号（1979 年 2 月）

「日米中軍事同盟」のリアリティ（藤井治夫）

20 卷 3 号（1979 年 3 月）

日中貿易に何が起きているか（清水正夫）

20 卷 4 号（1979 年 4 月）

中国のベトナム侵攻と米ソの思惑

中越ショックに揺れる政府与野党

日中軍団再浮上の政界裏面図（港一平）

20 卷 5 号（1979 年 5 月）

中越戦争とイラン革命：社会主義の「近代化」が提起した諸問題を今
日的状況から解明する（北川登）

貧しい中国，豊かな中国（檜山久雄）

20 卷 6 号（1979 年 6 月）

中越戦争と社会主義の難所（山川暁夫）

20 卷 7 号～11 号 なし

20 卷 12 号（1979 年 12 月）

日中経済協力の前提と展望（折口二郎）

21 卷 1 号～6 号 なし

21 卷 7 号（1980 年 7 月）

台湾の政治犯裁判と恐怖政治

21 卷 8 号（1980 年 8 月） なし

21 卷 9 号（1980 年 9 月）

中国観光旅行始末記（檜山久雄）

21 卷 10 号（1980 年 10 月） なし

21 卷 11 号 (1980 年 11 月)

変動する中国像と知識人の位相

21 卷 12 号～22 卷 1 号 なし

22 卷 2 号 (1981 年 2 月)

日本国は支配領有し日本人として戦争に強制出兵させた者をどのよう
に扱おうとしているのか (林景明)

22 卷 3 号～4 号 なし

22 卷 5 号 (1981 年 5 月)

中国を揺るがす「信念の危機」(矢吹晋)

中国における「体制内批判派」(吉田富夫)

中国の国家幻想と辺境反乱 (加々美光行)

中国向何处去? (中国, どこゆく) (竹中労)

毛沢東と鄧小平 (新島淳良)

人民解放軍の理念と現実 (中山敏雄)

文革の一〇年と経済の近代化 (山内一男)

【随筆的寸評】文化大革命に何を見たか (井上清, 菅沼正久, 太田勝
洪など)

文革後の中国文学: 王蒙の文学をめぐって (村田茂)

それからの「李一哲」(張世潮)

中国のトップ人事にみる指導体制 (桐村千春)

22 卷 6 号～9 号 なし

22 卷 10 号 (1981 年 10 月)

中国は何処へ行く: マルクス主義の再生をめぐる諸問題 (S・アミーン)

22 卷 11 号～12 号 なし

23 卷 1 号 (1982 年 1 月)

邪魔者は殺す台湾政府と陳博士の死 (林景明)

23 卷 2 号～10 号 なし

23 卷 11 号 (1982 年 11 月)

諸外国に見る歴史教科書と教育 (村井吉敬, R・アビト, 山口明子ほか)

中国共産党第一二回大会の選択

23 卷 12 号 (1982 年 12 月)

中国情報の時空構造と中国研究 (村田茂)

(竹内好)

竹内好批判論文・解題 (完) (しまねきよし)

6次 100号～101号 なし

6次 102号 (1979年3月)

わが中国紀行：歴史と文学の旅 (佃実夫)

6次 103号 (1979年4月)

わが中国紀行：歴史と文学の旅 北京好日 (佃実夫)

6次 104号～110号 なし

6次 111号 (1980年1月)

台湾、時の流れのなかで (中村ふじゑ)

6次 112号～121号 なし

6次 122号 (1980年9月)

中国「現代化」への陥穽：“進歩”への新生か，“守旧”への退歩か
(小林文男)

中国文芸の現況と展望：日本の『思想の科学』誌のために (懐冰)

竹内中国を検討する (玉川しんめい)

中国人夫婦の別居生活 (西条正)

近代化路線の問題点 (花山勉)

誰か「感じる中国語」という本を書かないか：体験的中国語学習法
(岡崎満義)

中国との交通をめぐるさまざまな問題 (栗栖継)

文革の中国に住んで (関口和夫, 張宝之)

湖南省無連から啓蒙社へ：紅衛兵世代はなにを学んだか (渡辺一衛)

<阿炳>その後 (金子一秋)

中国関係文献案内

6次 123号～7次 8号 なし

7次 9号 (1981年11月)

中国のニューウェイブ 青年民主派 (張世潮)

7次 10号～13号 なし

7次 14号 (1982年2月)

中国の見る日本の民族問題 (菅沼正久)

7次 15号～26号

なし

自由

1号 (1959.12) ~ 51巻2号 (2009.2), 東京: 自由社
18巻1号 (1976.1) ~ 24巻12号 (1982.12)
大阪大学附属総合図書館 (調査: 岡野翔太, 2018年7月)

18巻1号~2号 なし

18巻3号 (1976年3月)

孤独の人・毛沢東 (桑原寿二)

中国・ソ連の現実 (岩沢伸一)

18巻4号 (1976年4月)

周恩来首相の死

18巻5号 (1976年5月)

再燃した中国の権力闘争

18巻6号 (1976年6月)

天安門の青天白日旗と蝶恋花

四・五清明暴動と国府の反応

日本とソ連からみた天安門事件と中国の今後 (M・チタレンコ, 中嶋嶺雄)

18巻7号 (1976年7月)

「紅」か「専」か, 中・ソのジレンマ (森永和彦)

18巻8号~9号 なし

18巻10号 (1976年10月)

一九三一年から七六年に至るアメリカの中国政策の変遷 米国外交姿勢の典型表現の軌跡 (川島弘三)

18巻11号 (1976年11月)

毛沢東の死と台湾 (宋重陽)

毛死後の中ソ関係 (原子林二郎)

中国の天変地異

18 卷 12 号 (1976 年 12 月)

中国製アヘン三九牌

江青と毛沢東：太后支配を狙った女性 (伊原吉之助)

19 卷 1 号～2 号 なし

19 卷 3 号 (1977 年 3 月)

鄧小平の復権はマダマダ

続・鄧小平の復権？

中ソ両国の日本をめぐる論調

19 卷 4 号～5 号 なし

19 卷 6 号 (1977 年 6 月)

中国，史上空前の大旱ばつ

中国ブームの中の偏向発言：異常な発言のかずかず

19 卷 7 号 (1977 年 7 月)

周恩来臨終の“真相”

19 卷 8 号 (1977 年 8 月)

華国鋒はよろめいている

中国で、いま何が起きているのか：ソ連側からみた中国の権力闘争

(M・ガガーリン)

19 卷 9 号 (1977 年 9 月)

鄧小平ついに返り咲く

重大な危険をはらむ中国の政策／「三民主義」擁護の壁新聞出現

19 卷 10 号 (1977 年 10 月)

鄧小平復活の中の中国 (森永和彦)

19 卷 11 号 (1977 年 11 月)

『巷説』華国鋒の生母・華玉

鄧小平再登場後の中共 (康銘淑)

華国鋒攻撃の壁新聞 「中華週報」

- 19 卷 12 号 (1977 年 12 月)
中共政治常務委五人衆
野心満々の鄧小平 (康銘淑)
興味深い『反革命分子』判決 「雲南省思茅地区中級人民法院」 布告
- 20 卷 1 号 (1978 年 1 月)
荒れてます！ 中国大陸
- 20 卷 2 号 (1978 年 2 月)
『人民日報』の珍投書
知っておいて損にならぬ台湾事情
中共の『国際情勢報告』(黄華)
- 20 卷 3 号 (1978 年 3 月)
嘘・ホント中国の人口九億？
- 20 卷 4 号 (1978 年 4 月) なし
- 20 卷 5 号 (1978 年 5 月)
久方ぶりの台湾 (加瀬英明)
中華民国の人権に関する報告 (アメリカ国務省)
中共「革命委員会」人事 (康銘淑)
新情勢下で日本外交を考える (上) 今こそ日米の盟邦関係を確認し
て、中ソ両国に対する明確な姿勢を確立すべきである (入江通
雅)
- 20 卷 6 号 (1978 年 6 月)
強大国・中国の威嚇侵犯
尖閣諸島侵犯事件と安保 (入江通雅)
中国による領海侵犯事件に思う (小山内高之)
貿易プラス政治・中国市場の評価 (E・カチューラ)
『幹部政策』に関する講和 (鄧小平)
ソ連専門家のみた中国 変わりつつある中国 (丸毛忍)
- 20 卷 7 号 (1978 年 7 月)
尖閣島か、釣魚島か？ (オレグ・グレボフ)

「五期人代会」以後・機構と経済（康銘淑）

「五期人代会」以後・人事動向（項廻光）

20 卷 8 号（1978 年 8 月）

華僑追放・そのなかで...（森永和彦）

危険な干渉・華僑問題をめぐる中国とベトナム（M・ゲオルギエフ）

ブレンジンスキー訪中と中国（E・カチューラ）

中共における不正と腐敗（『中央日報』）

中共の壁新聞（『マスコミ』を考える会）

20 卷 9 号（1978 年 9 月）

日中正常化は日ソ対立への道（V・グドリャフツェフ）

康生批判から華・鄧の暗闘まで（高節）

腑に落ちない中国の態度（酒伊みつる）

20 卷 10 号（1978 年 10 月）

日中友好条約・その政治的意義（入江通雅）

日中友好条約の締結に想う

「毛沢東批判」の開始（康銘淑）

中国の軍人に対する思想工作（B・ゴルバチェフ）

20 卷 11 号（1978 年 11 月）

日中以後の中ソ抗争（森永和彦）

北京の反ソ主義（B・ソボロフ）

中国指導部の権力争い（朱文琳）

20 卷 12 号（1978 年 12 月）

甘くないこれからの日中関係

日中平和友好条約後の韓半島（朴錫均）

華政権の経済十年計画（鄭竹園）

中共とベトナム抗争（陳慶）

江青・女帝の夢（伊原吉之助）

21 卷 1 号（1979 年 1 月）

中ソの対決と日本（森永和彦）

日中友好平和条約の波紋（田駿）

北京の挑発（I・アレクサンドロフ）

中国ブームのかげに（M・デムチェンコ）

中国の壁新聞：毛沢東、華国鋒批判の民の声（『マスコミ』を考える会）

江青・女帝の夢（下）（伊原吉之助）

21 卷 2 号（1979 年 2 月）

「日米中」三国体制と日本の責任

中国の人権侵害（張旭成）

21 卷 3 号（1979 年 3 月）

中国政治犯の悲惨な状況（国際アムネスティ調査報告）

21 卷 4 号（1979 年 4 月）

中国の変貌と東アジアの安全保障：台湾海峡をめぐる戦略情勢（川島弘三）

鄧副首相のテンポ（A・ペトロフ）

21 卷 5 号（1979 年 5 月）

中越戦争の意義（森永和彦）

「毛沢東思想」の破産（姜新生）

【読者の主張】中国の平和観（板橋隆彦）

21 卷 6 号（1979 年 6 月）

半島をめぐる中ソの抗争（森永和彦）

「日中条約」で泣く日本（黄天才）

21 卷 7 号（1979 年 7 月）

朝日新聞に見る中国と社会主義神話の崩壊（佐桑徹）

中国大陸の近代化とその隘路（鄭竹園）

21 卷 8 号（1979 年 8 月）

中国とソ連は必ず妥協する

21 卷 9 号（1979 年 9 月）

台湾の将来・四つの方向（M・カプラン）

短かった北京の春

この目でみた中国とボル・ポト派（アジア仏教徒代表団）

21 卷 10 号（1979 年 10 月）

鄧小平ら「復活派」の実験掌握（康銘淑）

華国鋒・鄧小平両派の暗闘（高節）

日中条約一周年（E・カチューラ）

21 卷 11 号（1979 年 11 月）

鄭教授の“中国観察”

壁新聞の語る華・鄧の争い（葉洪生）

中国の司法制度（毛沢山）

台湾からみた大陸中国の現状（鄭竹園）

大國中ソの抗争とカンボジア（森永和彦）

21 卷 12 号（1979 年 12 月）

ある受難の毛沢東

台湾は独立すべきではないか（林三郎）

22 卷 1 号（1980 年 1 月）

中国版“助郷制度”

22 卷 2 号（1980 年 2 月）

大平訪中，大字報

中国の新禁句毛沢東讃歌『赤い太陽』

中国は台湾に“完敗”した！大陸に三民主義の嵐（木屋隆安）

中国共産党が政権を握った前後

22 卷 3 号（1980 年 3 月）

人民大会堂の“恋物語”

22 卷 4 号（1980 年 4 月）

毛沢東の「三大革命運動」（張敬文）

米国の対華兵器売却再開（中央日報社説）

22 卷 5 号（1980 年 5 月）

劉少奇前国家主席の名誉回復（鄧小平）

22 卷 6 号（1980 年 6 月）

楊得志・「総参謀長」就任の背景（康銘淑）

四人組事件・権力闘争の極致（項廻光）

劉少奇の名誉回復と毛沢東批判（斉茂吉）

22 卷 7 号（1980 年 7 月）

米中御推薦の国防強化

中・ソの狭間に生きる金日成（朴錫均）

波静かな台湾海峡（A・ビドフ）

22 卷 8 号（1980 年 8 月）

頭痛の種鄧麗君（テレサ・テン）の歌（劉曉梅）

22 卷 9 号（1980 年 9 月）

大平葬儀と米中弔問外交（森永和彦）

22 卷 10 号（1980 年 10 月）

危機迫る中国農業

日中の進展と韓国への影響（呉淇坪）

人間・毛沢東批判（高文雄）

毛沢東批判に関する秘密報告 華国鋒主席の毛沢東批判（インタビューに答えて）（王若水）

22 卷 11 号（1980 年 11 月）

“南京大虐殺”はなかった：その“虚構”を徹底的にあばく（木屋隆安）

22 卷 12 号（1980 年 12 月）

なし

23 卷 1 号（1981 年 1 月）

江青らの『政治裁判』始まる 正規のショーも竜頭蛇尾に？

江青の助命なげせぬ？

23 卷 2 号（1981 年 2 月）

なし

23 卷 3 号（1981 年 3 月）

中共の法制を分析する（馬漢宝）

23 卷 4 号（1981 年 4 月）

中国大陸に紅幫復活

中国の近代化と建設計画の中止（森永和彦）

米・ソ・中共の三角関係（陳裕清）

華国鋒の失脚（鄭竹園）

23 卷 5 号（1981 年 5 月）

毛沢東の予見・文革は続く（大曲直）

中国共産党『中央工作會議』の全貌

江青の獄中手記『私と鄧小平の闘争』

第 26 回党大会における中国批判（O・ポリソフ）

23 卷 6 号（1981 年 6 月）

岐路にたつ共産経済体制（森永和彦）

23 卷 7 号（1981 年 7 月）

現代中国・苦悩の実態（小川平四郎）

23 卷 8 号（1981 年 8 月）

中国社会主義経済の諸問題（蘇紹智）

『蘇氏と私の出会い』（高橋正雄）

中越戦争は再発するか（山崎太喜男）

中国大陸に明日はない！（木屋隆安）

23 卷 9 号（1981 年 9 月）

“病める獅子”中華人民共和国 新軍閥『黄安県』グループ台頭（木屋隆安）

中国軍部の指導権抗争（劉真中）

23 卷 10 号（1981 年 10 月）

胡耀邦・新主席誕生の背景（康銘淑）

23 卷 11 号～12 号 なし

24 卷 1 号（1982 年 1 月）

北朝鮮と中国の確執（全富徳）

24 卷 2 号（1982 年 2 月）

日本人の中国観変遷（西平重喜）

24 卷 3 号（1982 年 3 月）

新中国汽車旅行見聞録（長山義男）

24 卷 4 号 (1982 年 4 月)

鄧小平の“貞観の治”(木屋隆安)

中ソ対立時代と日本業界の変遷 (喜入亮)

24 卷 5 号 (1982 年 5 月)

中国の恐怖, 回教諸族 (木屋隆安)

24 卷 6 号 (1982 年 6 月)

中国旅行雑感 (長山義男)

24 卷 7 号 (1982 年 7 月)

なし

24 卷 8 号 (1982 年 8 月)

新局面を迎えた米中ソ関係 (田久保忠衛)

日台経済摩擦の行方 (廣川浩然)

24 卷 9 号~11 号

なし

24 卷 12 号 (1982 年 12 月)

東南アと日本の対中関係批判 (張超英)

佐藤駐中国大使の初仕事（永野信利）

9 卷 10 号（1977 年 10 月）

華国鋒の中国・鄧小平の中国（中嶋嶺雄）

9 卷 11 号（1977 年 11 月）

四人組追放で NO.5・汪東興（伴野朗）

9 卷 12 号～10 卷 4 号 なし

10 卷 5 号（1978 年 5 月）

毛沢東を入れて「五人組」（C・ブロワイエール，J・ブロワイエール）

日本経済に接近する中国（長谷川慶太郎）

10 卷 6 号（1978 年 6 月）

「尖閣列島」への少数意見（佐瀬昌盛）

10 卷 7 号～9 号 なし

10 卷 10 号（1978 年 10 月）

日中条約・匿された方位（岡部達味，宇佐美滋）

10 卷 11 号（1978 年 11 月） なし

10 卷 12 号（1978 年 12 月）

最新資料の中の鄧小平を紹介します（内藤雄三）

中国：日本経済の巨大な賭け（長谷川慶太郎）

11 卷 1 号（1979 年 1 月） なし

11 卷 2 号（1979 年 2 月）

「毛沢東神話」の逆説（中嶋嶺雄）

中国は墮落している（新島淳良）

11 卷 3 号（1979 年 3 月） なし

11 卷 4 号（1979 年 4 月）

「反文革」の波の中を（林健太郎）

11 卷 5 号（1979 年 5 月）

知識人にとっての「中国とベトナム」（中嶋嶺雄，C・カダール，程映湘）

11 卷 6 号～9 号 なし

11 卷 10 号（1979 年 10 月）

中国を蝕んでいる“貴族”たち（斉幸）

不幸な日中関係の「もしも」（岩井利夫）

12 卷 1 号（1980 年 1 月）

北京は中華民国を承認する：鄧小平は台湾独立を保障する無数のプロ
ックサインを出している（岡田英弘）

12 卷 2 号～4 号 なし

12 卷 5 号（1980 年 5 月）

お帰りなさい劉少奇：こうして文化大革命の幕は降りた（宇佐美滋）
学生目で見た中国（池井優）

12 卷 6 号（1980 年 6 月）

ソ連の野望 中国の没法子（曾野明，岡田英弘）

12 卷 7 号（1980 年 7 月）

宴のあとの中国論（岡崎久彦）

12 卷 8 号～10 号 なし

12 卷 11 号（1980 年 11 月）

中国の壮大な実験「産むな増やすな」（片桐為精）
さようなら毛沢東（宇佐美滋）

12 卷 12 号（1980 年 12 月）

朝日新聞と中国報道：天安門事件以後（伊藤喜久蔵）

13 卷 1 号（1981 年 1 月）

政治学は現代を救えるか？（衛藤藩吉，中嶋嶺雄など）

13 卷 2 号（1981 年 2 月）

鄧小平の陰謀：四人組裁判から消えている男たち（伊藤喜久蔵）

13 卷 3 号（1981 年 3 月）

日本の四人組は何処へ行った？今，ひたすら逃げまわる文革礼賛派文
化人銘々伝（西義之）

13 卷 4 号（1981 年 4 月）

日本の四人組は何処へ行った？完結編（西義之）

13 卷 5 号～9 号 なし

13 卷 10 号 (1981 年 10 月)

中国人留学生たちのニッポン拝見 (西義之)

13 卷 11 号～14 卷 8 号 なし

14 卷 9 号 (1982 年 9 月)

米中国交回復十年目の摩擦 (宇佐美滋)

14 卷 10 号 (1982 年 10 月)

読者が逃げていった中国報道偏向の失敗 (佐々克明)

教科書問題をどう思いますか (伊藤喜久蔵ほか)

14 卷 11 号～12 号 なし

正論

1973年11月号～ 現在、東京：産経新聞出版局
1976年1月号～1982年12月号
奈良県立図書館情報館（調査：和田英男，2018年9月）

1976年1月号

第三世界“共産革命宣言”（編訳・中嶋嶺雄）

1976年2月号

江青外交演説のものすごい全貌（中嶋嶺雄）

1976年3月号

鄧小平時代の“混乱”と“模索”（柴田穂，中嶋嶺雄，小山内宏）

1976年4月号

なし

1976年5月号

“鄧小平失脚”の意味するもの（中嶋嶺雄）

1976年6月号

緊急時評・亀裂深まる毛沢東体制（中嶋嶺雄）

1976年7月号～9月号

なし

1976年10月号

どうなる毛以後の中国（石川忠雄）

1976年11月号

毛沢東の死（中嶋嶺雄）

ポスト毛の日中友好は（衛藤藩吉）

1976年12月号

華国鋒主席の戦い（中嶋嶺雄）

江青の陰謀と三人の男（柴田穂）

1977年1月号

毛沢東死去と中ソ関係（藤崎萬里）

1977年2月号

中国人と「ことば」 毛沢東語録引用の表と裏（岡田英弘）

1977年3月号

なし

1977年4月号

華国鋒体制の矛盾（中嶋嶺雄）

バンス・鄧小平会談全文（サイラス・バンス，鄧小平）

1977年5月号～臨時増刊号

なし

1977年6月号

“四人組”への批判（若松重吾）

福田対中外交に苦言（石川忠雄）

1977年7月号～10月号

なし

1977年11月号

日中平和条約の新局面（法眼晋作，中嶋嶺雄，柴田穂）

独占掲載 鄧小平“自己批判”全文

日中軍備比較論（海原治）

1977年12月号～1978年1月号

なし

1978年2月号

日中条約は緊張高める（小谷秀二郎）

1978年3月号

なし

1978年4月号

対日「覇権条項」中国の狙い（加地伸行）

日中条約交渉と調印は別（衛藤瀋吉）

1978年5月号

全人代と新権力闘争（柴田穂）

レポート・日本と中国を結ぶ「新しい一〇〇人」

日中交渉再開は慎重に（石川忠雄）

臨時増刊号

なし

1978年6月号

中国“四人組”の秘密裁判（高田富佐雄）

大陸中国の印象（辻村明）

1978年7月号

華国鋒のカバンの中身（清水徳蔵）

日中正常化の反面教師（猪木正道）

「尖閣」侵犯は明らかな脅迫（林三郎）

“偶発”あり得ぬ尖閣侵犯（志水速雄）

1978年8月号

日中交渉再開を前に（衛藤瀋吉）

尖閣諸島交渉の必要なし（林修三）

中国社会主義の評価（辻村明）

1978年9月号

日中平和友好条約を見詰める（中嶋嶺雄）

日中交渉，日本の立場貫け（衛藤瀋吉）

1978年10月号

“日中条約”に思う（猪木正道，法眼晋作）

1978年11月号

文革と日本の知識人（西義之）

日中新時代の国際政治戦略（本誌編集部）

日中友好の“かなめ”は人権（武藤光朗）

日中条約，ムダでなかった六年（猪木正道）

1978年12月号

古い友人と古く良き友人（西義之）

特別掲載・日中関係の検討と策進（張宝樹）

1979年1月号

なぜ中国人はロシア人を嫌いか（岡田英弘）

特別レポート 中国現代化の素顔（吉田光邦）

日中共通の敵は誰か（曾野綾子）

中国の贗の友人たち（西義之）

1979年2月号

北京、再び燃ゆ（中嶋嶺雄）

基礎づくり進む中国（吉田光邦）

日中接近と朝鮮半島（佐伯彰一）

特別レポート 中国現代化の素顔（吉田光邦）

1979年3月号

中国現代化の素顔 前途多難な工業化（吉田光邦）

1979年4月号

米中国交樹立と人権問題（武藤光朗）

1979年5月号

北京の思惑とリスク（桑原寿二）

導火線となった日中平和友好条約（林三郎）

米中に共通の感情的政策（高坂正堯）

中越紛争どう受けとめる（関嘉彦）

1979年6月号

なし

1979年7月号

中ソ同盟条約はどうなる（志水速雄）

1979年8月号

中国の怒れる若者たち（高田富佐雄）

1979年9月号～1980年2月号

なし

1980年3月号

“中国フィーバー”からの脱却（神谷不二）

1980年4月号

なし

1980年5月号

鄧小平の復讐（中嶋嶺雄）

独占掲載 毛沢東批判・全文（王若水，[訳・解説 高田富佐雄]）

1980年6月号～1980年7月号

なし

1980年8月号

私は中国首脳と腹を割ってこれだけ話した（矢次一夫，中嶋嶺雄）

- 1980年9月号 なし
- 1980年10月号
中国首脳人事“激変”の内幕（高田富佐雄）
- 1980年11月号～1981年2月号 なし
- 1981年3月号
中国の政治ショーを啜う（北詰洋一，住田良能，林慧児，柴田穂）
- 1981年4月号～7月号 なし
- 1981年8月号
成熟する日中両共産党の和解（中嶋嶺雄）
- 1981年9月号 なし
- 1981年10月号
鄧・胡体制の形成とジレンマ（中嶋嶺雄）
賛成できぬ米中の軍事力（神谷不二）
- 1981年11月号
中国人はアメリカ人が嫌い（岡田英弘）
- 1981年12月号
日中政府借款，灰色の決着（中嶋嶺雄）
- 特別増刊号 危機の時代 日本の戦略 なし
- 特別増刊号 危機の時代 ソ連の脅威
中国から見たソ連の戦略と軍事力（程明群，姚文彬）
- 1982年1月号～3月号 なし
- 1982年4月号
日本の知識人にとって“いま毛沢東とは”（中嶋嶺雄）
- 1982年5月号～6月号 なし
- 1982年7月号
変わりはじめた中ソ関係（中嶋嶺雄）
- 特別増刊 日米同盟の強化 先端技術の提携
中共軍に対する鄧小平の「革命」（朱良）
- 1982年8月号～10月号 なし

1982年11月号

時間に耐える報道とは何か：中国報道で考えたこと（中嶋嶺雄）

特別増刊号 宇宙兵器と新しい核戦略 なし

1982年12月号

日中・日韓関係をどうするか（中川融）

世界

| |
|---|
| 1号(1946.1)～現在, 東京: 岩波書店 362号(1976.1)～445号(1982.12) 大阪大学附属総合図書館(調査: 和田英男, 2018年5月) |
|---|

- 362号～363号 なし
- 364号(1976年3月)
周恩来の生涯
周恩来総理の思い出(岡崎嘉平太)
- 365号(1976年4月)
教育革命から走資派批判へ
- 366号(1976年5月)
継続革命としての走資派批判
- 367号(1976年6月)
鄧小平解任の背景
- 368号(1976年7月) なし
- 369号(1976年8月)
転換点を迎える中国の経済と社会(石川滋)
社会主義モデルの多元化とソ連(平井友義)
第三世界外交のディレンマ(太田勝洪)
【シンポジウム】中ソ社会主義の原像: 経済構造と農業問題(奥田
央, 小島麗逸, 中山弘正, 矢吹晋)
【解説・年表】中ソ抗争: 二国関係から国際舞台へ(木村明生)
- 370号～371号 なし
- 372号(1976年11月)
毛沢東主席の思い出(岡田春夫)

392号 (1978年7月)

ブレジンスキー訪中と台湾

日中条約：福田政治の戦略 (松宮英三)

393号～394号 なし

395号 (1978年10月)

【座談会】アジアの現状をどうとらえるか (太田勝洪, 木村哲三郎,
西川潤, 林理介, 平井友義)

日中条約後の世界と日本 (川田侃)

得隴望蜀 (岡崎嘉平太)

日中条約の調印に寄せて (谷川徹三)

文革と近代化 (辻康吾)

解放後のベトナムと中越関係 (池内秀樹)

本格化する米中経済関係 (江頭数馬)

非同盟の潮流 (大石悠二)

葦の髄から中国をのぞく (藤村信)

日中条約の国際環境 (中嶋嶺雄)

【座談会】中国認識の再検討 (J・エシェリック, 中村義, M・セルデン,
山極晃)

396号 (1978年11月)

中国社会主義と「近代化」 (山内一男)

397号 (1978年12月) なし

398号 (1979年1月)

天安門事件と毛沢東批判

鄧副首相来日後の中国 (辻康吾)

399号 (1979年2月) なし

400号 (1979年3月)

中国の経済改革とその方向 (石川滋)

米国にとって中国とは何か (入江昭)

【座談会】中国は何処へ行くか (菊地昌典, 中嶋嶺雄, 田所竹彦, 中兼

- 和津次，齊藤孝 [司会]
- 文革派群像 (辻康吾)
- 鄧小平グループの構図 (矢吹晋)
- アジアの新情勢とソ連外交 (森本良男)
- 【資料・解説】 文革批判の軌跡 (江頭数馬)
- 中台関係の行方
- 401号 (1979年4月)
- 中越国境紛争の経緯
- 中越衝突：その国際関係
- 402号 (1979年5月)
- 現代中国の変貌 (野村浩一)
- 403号 (1979年6月)
- 中国外交と社会主義 (宇野重昭)
- 404号～405号 なし
- 406号 (1979年9月)
- 台湾の新たな政治状況
- 407号～411号 なし
- 412号 (1980年3月)
- 台湾：失速経済下の危機 (野沢涉)
- 413号～414号 なし
- 415号 (1980年6月)
- 「新しい冷戦」の国際学 (中嶋嶺雄)
- 岐路に立つ中国指導部 (田所竹彦)
- 中国現代化を見る (石田雄)
- 416号 (1980年7月)
- 和解に向うか日中共产党 (岩垂弘)
- 417号 (1980年8月)
- 中国の新聞のおもしろさ (加藤祐三)
- 418号～422号 なし

前衛

1 卷 1 号 (1946.2) ~ 現在, 東京: 日本共産党中央委員会出版局

390 号 (1976.1) ~ 487 号 (1982.12)

大阪府立中央図書館, 1976 年の記事は 404 号の総目次, 1977 年の記事は 420 号の総目次, 1979 年の記事は 446 号の総目次, 1980 年の記事は 461 号の総目次, 1982 年の記事は 489 号の総目次より確認 (調査: 和田英男, 2018 年 12 月)

390 号~425 号

なし

426 号 (1978 年 6 月)

尖閣列島問題と真の日中友好の道 (真山実)

427 号 (1978 年 7 月)

なし

428 号 (1978 年 8 月)

「華僑」問題の背景と真実: 緊張するベトナム・中国関係 (鈴木勝比古)

429 号 (1978 年 9 月)

なし

430 号 (1978 年 10 月)

日中平和友好条約と福田外交 (三浦一夫)

431 号 (1978 年 11 月)

「華僑」問題その後: 中国・ベトナム紛争の問題点をさぐる (鈴木勝比古)

432 号 (1978 年 12 月)

なし

433 号 (1979 年 1 月)

【一問一答】日中平和友好条約と日本共産党 (星野力)

434 号~435 号

なし

436 号 (1979 年 4 月)

【緊急座談会】中国・ベトナム・カンボジア (尾崎陞, 賀川一彦, 榊利夫, 立木洋, [司会] 佐々木一司)

中央公論

1号 (『反省會雑誌』1887.8) ~ 現在, 東京: 中央公論社
1976年1月号~1982年12月号
大阪大学附属総合図書館 (調査: 和田英男, 2018年5月)

1976年新年特大号

流民の記憶 中国の旅第三回 (司馬遼太郎)

1976年新春2月特大号

特別寄稿 “対ソ緊張下”の中国軍事情報報告 フォード訪中随行者
が分析する核ミサイル戦略 (プリンクローロジャース)

孔丘の首 中国の旅第四回 (司馬遼太郎)

1976年3月号

人物交差点 鄧小平／竹下登／新藤兼人／北島忠治 (光)

「新太平洋ドクトリン」と中ソ冷戦 深まる中ソ対立下国際政治の新しい波を透視する (中嶋嶺雄)

周恩来の遺産と革命第二世代 宰相型権力の巨大な空白から, 何が生じてくるか (竹内実)

【雑談・世相走馬燈】人間周恩来の魅力を語る 不世出の英雄を理解したつもりでいても, しょせん「群盲象をなでる」のようなもの (貝塚茂樹, 陳舜臣, 三田村泰助)

洛陽の穴 中国の旅第五回 (司馬遼太郎)

1976年4月号

周以後から毛以後へ 鄧小平は失脚か。中国に渦巻く政治気流を解析! (柴田穂)

桃中軒牛右衛門の“夢”は悪いのか: 中国大使館にダメを出された演出家の不満の部分 (木村光一)

琉璃廠の街角で 中国の旅第六回 (司馬遼太郎)

1976年5月特大号

北京の桐の花 中国の旅第七回 (司馬遼太郎)

1976年6月号

毛沢東の最後の賭け 天安門の騒ぎはなぜおこり、どう処理されたか? (森田明彦)

【対談】火祓教と中国文化：唐経由で日本に伝わったペルシャ文化の陰には、ゾロアスター教の匂いがたちこめている (石田幹之助, 松本清張)

伝国の書物 中国の旅第八回 (司馬遼太郎)

1976年7月号

北京の人々 中国の旅最終回 (司馬遼太郎)

1976年8月特大号

「毛以後」の始動 (村松暎)

北京の晴舞台で田中角栄は何を見たか 米中の現実外交の中で踊らされた“早すぎた首相” (田原総一郎)

1976年9月特大号

新毛沢東論 (村松暎)

再構成 天安門事件 (中嶋嶺雄)

【革命秘録】私は広東省の農村工作隊員だった：土地革命と人民裁判の実態 (秋山良照)

1976年10月号

なし

1976年11月特別号

正統・毛思想はいかにして作られるか (中村公省)

毛沢東の変身 (貝塚茂樹)

【鼎談】中国現代史と日本人：「成功したアナーキスト」毛沢東が指導した革命中国は、既成の政治観念では測り得ぬ (開高健, 橋川文三, 萩原延寿)

革命第二代はどこへゆくか：巨大な革命化を喪った今、若い世代はそ

のエネルギーを何に向けるのか（竹内実）

鍵を握る人民解放軍の内幕 武力衝突はありうるか。人脈とその勢力を解明し時代の指導者群に迫る（鹿沢剛）

【評伝】人民中国のプリンス王洪文（丁望）

【独占特報】周恩来国際情勢に関する秘密演説（解説・訳：南道明）

中国棒球事始め工作日誌：米中接近，国技にベースボールを採用した心意気（鈴木陽一）

【特別付録】中国重要人物一覧図（資料提供：南道明）

1976年12月号

【座談会】人民中国の悲劇とその波紋：いま何が起こっていて，その趨勢はどこへ（竹内実，永井陽之助，中嶋嶺雄）

毛沢東路線の原型：四川省の農村で整風運動の工作員として見聞した貴重な体験を綴る（秋山良照）

鄧小平語録：文革派に公然と敵対してきた男の言動を追うと政変が浮かび上がる（東京外国語大学現代中国研究会）

汪東興と八三四一部隊：毛沢東を護衛していた男が掌握している異常な武力の謎を追跡する（犬養総一郎）

1977年新年特別号

【座談会】米中ソ'77の知られざる国際戦略（外信部記者）

1977年新春2月特別号

【評伝】華国鋒の秘められた履歴：江青らを駆逐し，大権を握った男の謎を追う（丁望）

1977年3月号

無告の民「華僑」：激動する東南アジアの中でなぜ，蔭の実力者といわれ，白眼視されるのか（戴國輝）

鄧小平の実力：中国をまとめてゆける唯一の人といわれるが（森田明彦）

毛・周二つの葬儀に見た愛と憎 毛沢東は思想を周恩来は夢を残して逝ったが（松井やより）

1977年4月号

なし

1977年5月号

【座談会】米中ソの東北アジア外交を解説する（外信部記者）

鄧小平復活の謎を解く：二度目の失脚からも復活しえた男の政治基盤
（丁望）

1977年6月号

手記・北京の紅衛兵：十年目の証言 現代中国の進路を変えた紅衛兵の
中枢にいた筆者が謎に包まれたその実態を明らかにする（杜光）

1977年7月特別号

人物交差点：符浩／尾鍋輝彦／早坂順一郎／江川卓（京）

中米関係についての講話〈要旨〉（耿飈）

1977年8月特別号

なし

1977年9月特別号

華国鋒政権下三大派閥の暗闘：鄧小平が復活しても政争はますます激
化する（丁望）

【鼎談】中国の軍事力を見て：日本の軍事専門家に門戸を開いた理由は
（海原治，永末英一，法眼晋作）

1977年10月特別号

現代中国の人民裁判傍聴記：拷問と苦役の収容所からただ一人脱走し
えた筆者が，解放されたはずの社会の惨状を暴く（大野正男）

1977年11月特別号

辺境の中国を行く：中ソ紛争の地・新疆ウイグル自治区旅日記抄（山本
満）

1977年12月特別号

なし

1978年 新年特別号

人民中国ハルビン第十六中学就学記（西条正）

1978年新春2月号

香港よいとこ（村松暎）

一億七千万人の受験戦争：十億前後の歴大な人口の圧力が，近代化への
道の“決定的要素”となった（竹内実）

えられるか（竹内実）

小説 北京のひとり者 文革を実体験した新進女流作家が描く、中国知識人の喜びと悲しみ（陳若曦）

1978年11月号

評伝・鄧小平 世界的に偉大な実際家が日本にやってくる。その闘いの日々と風貌。（竹内実）

単独会見記 人民服の溥傑球満州国皇帝 日中の狭間で流転の人生を余儀なくされた七十年余をひそかに語る（横堀洋一）

1978年12月号

なし

1979年新年特大号

防衛戦略としての日本外交（中嶋嶺雄）

1979年2月特大号

国際政治における文化と権力（入江明）

太平洋を越えた親和力（中嶋嶺雄）

中国を開く力の行方（竹内実）

八十年代アジアの安全保障（ケネス・ハント）

1979年3月特大号

なし

1979年4月号

覇権の連鎖反応（永井陽之助，中嶋嶺雄，矢野暢）

中国の尻尾，ベトナムの尻尾（伴野朗）

中国で忠臣蔵がうけたわけ（野口達二）

1979年5月号

暗影としてのナショナリズム（竹内実）

世界史の中のアジア（吉本隆明）

北京の小澤征爾（萩本晴彦）

カルダン中国を語る（P・カルダン）

1979年6月特大号

中越戦争以後の「赤い決闘」（フランソワ・ミソフ，矢野暢）

1979年7月号

魯迅のなかの日本人（岡田英弘）

北京・重慶・西安への旅（下河辺淳）

1979年8月号

人物交差点 彭真／小和田恒／上田三四二／金沢明子

脱アジアのすすめ（矢野暢）

中国の日本語教室見聞記（金田一春彦）

1979年9月特大号

中国の旅・武漢から（前田常作）

モスクワ対北京：終わりなき闘い（マーク・ゲイン）

1979年10月特大号

混乱と不安の中国（マーク・ゲイン）

1979年11月特大号

中国であえて行なった四つの近代化批判（西村肇）

文明の“再鑄造”をめざす中国（中嶋嶺雄）

中国近時雑感（宮川寅雄）

中国四千年の課題（今堀誠二）

革命二十五年の実感（貝塚茂樹）

1979年12月特大号

中国人養父を探して十五年（西条正）

1980年新年特別号

日本・中国・米国 八〇年代の経済的展望（大来佐武郎）

中国における人間の要素：人口・人材・人権（竹内実）

1980年2月特大号

太平洋横断連携は実現するか（ロス・テリル，中嶋嶺雄）

1980年3月特大号

中国人はなぜ日本に無関心なのか（岡田英弘）

1980年4月特大号

日中問題と日韓問題（岸信介，矢吹一夫 [構成：伊藤隆]）

1980年5月特大号

座談会 漢文明の奥地を探る（岩田慶治，梅沢忠夫，白鳥芳郎）

1980年6月特大号～9月号 なし

1980年10月特大号

中国よ、今こそ文化大革命を（中嶋嶺雄）

1980年11月特大号

香港の挑戦（邱永漢）

1980年12月特大号

北京の春（ドナルド・キーン）

日本を愛した中国人（岡田英弘）

1981年新年特大号

随筆 中国の道（鈴木健次）

見て来た中国の労働者自主管理（山内一男）

夫・賀竜は四人組にこうして消された（薛明）

四人組裁判 断罪される文革“戦犯”（江頭数馬）

1981年2月特別号

モスクワで北京を考える（竹内実）

1981年3月特大号 なし

1981年4月特大号

日中経済協力をどう調整するか(大来佐武郎[インタビュー:岡田臣弘])

地下出版物で読むもう一つの中国（訳・解説 地勢丹）

中国病に根本治療はあるのか（岡田英弘）

人民中国崩壊の兆候（矢吹晋）

接合の論理 推理・林彪四人組事件（松本清張）

イリ十日記：天山北路の諸民族たち（司馬遼太郎）

1981年5月特大号 なし

1981年6月特大号

中国電視台事情：テレビ，シルクロードを行く（鈴木肇）

1981年7月特大号 なし

1981年8月特大号

中国研究

創刊号 (1970.4) ~162号 (1984.10), 東京: 日本中国友好協会中国研究委員会
69号 (1976.1-2) ~141号 (1982.12)
大阪大学附属総合図書館 (調査: 和田英男, 2018年5月)

69号 (1976年1,2月)

「水滸伝」批判について (伊藤敬一)

「水滸批判」をめぐって (高島俊男)

「水滸批判」の初歩的検討 『週刊朝日』にのった“劇画”水滸伝を
めぐって (橋本堯)

【対談】社会主義と民主主義—スターリン, 毛沢東を念頭において (柳
田謙十郎, 重沢俊郎)

「平和と民主主義の新段階」はどこへいったか (姫田光義)

人民日報からみた中国: 大寨会議を追って (松永義衛)

資料 人民解放軍各部, 国防技術委員会, 軍種・兵種人事
書評 王アンナ著「革命中国に嫁いで」

70号 (1976年3月)

【てい談】周恩来の死と今後の中国 (加藤栄治, 丸山昇, 上原一慶)

社会主義憲法における表現の自由規定をめぐって (上) (藤田勇)

社会主義的分配の基本的諸原則: いわゆる「ブルジョアの権利」に関連して
(副島種典)

人民日報からみた中国: 教育革命の展開をみる (松永義衛)

資料 中国在外大使一覧表

71号 (1976年4月)

“走資派”批判キャンペーンの現段階 (三島朋之)

中国の工業労働組織の諸問題 (上) (中村義人)

紹介：シャルル・ベトレーム著『中国における文化革命と工業組織—
管理と分業の変革』（井出啓二）

「平和と民主主義の新段階」はどこへ行ったか(下) (姫田光義)

人民日報からみた中国：尖鋭化するキャンペーン (松永義衛)

資料 中華人民共和国異旧行政区革命委员会主任・副主任一覧表

72号 (1976年5月)

中国の「米帝下り坂」論へのアメリカの回答：米中関係の現局面 (川
本謙一)

内側からみた中国社会と民衆 (座談会) (編集部)

ドキュメント「天安門事件」：北京四月五日 (藤井五郎)

毛沢東思想の形成過程 (尾崎庄太郎)

人民日報からみた中国：走資派批判と生産の問題 (松永義衛)

73号 (1976年6,7月)

【てい談】天安門事件の実像を追って (加藤栄治, 米沢英夫, 高原七朗)

清明節, 私は天安門へ行った (野坂洋子)

人民日報からみた中国 (76.3.21-4.20) :天安門事件への底流 (松永義衛)

走資派批判・天安門事件関連資料

鄧小平語録

アメリカのあらたな対中アプローチ (倉淵隆三)

74号 (1976年8月)

人民日報からみた中国 (76.4.21-5-26) :天安門事件後の政治状況 (松
永義衛)

75号 (1976年9月)

人民日報からみた中国 (76.5-27-7.20) :鄧小平批判の展開を追って
(松永義衛)

76号 (1976年10,11月)

【座談会】毛沢東なき中国 (姫田光義, 松田昭次, 浅野雄三)

【資料】毛主席死去についての訃告

新段階に入った中国をめぐるいくつかの問題について (山口正之)

毛沢東の遺産を背負う今後の中国（加藤栄治）

人民日報からみた中国（76.7.21-8.10）：唐山大地震と人民解放軍（松永義衛）

【随想】毛・周体制について（加地亘）

77号（1976年12月）

文化大革命の終章（松永義衛）

フランス人がみた「クーデター未遂事件」（ルネ・リカルド）

大国主義干渉をふりかえって（和田一夫）

78号（1977年1月）

林彪，毛沢東を評す（上）（福島洋子解説，尾崎庄太郎訳）

「四人組」失脚への道（松永義衛）

79号（1977年2月）

四人組失脚後の中国（座談会）（加藤栄治，丸山昇，米沢秀夫）

林彪，毛沢東を評す（下）（福島洋子解説，尾崎庄太郎訳）

80号（1977年3,4月）

「四人組」追放後の百日（松永義衛）

文革前の「十大関係論」と華国鋒路線（米沢秀夫）

81号（1977年5月）

天安門事件一周年を迎える中国（中嶋嶺雄）

中国外交の転換と毛沢東（渡辺俊彦）

82号（1977年6月）

文革批判をめぐる二つの潮流（松永義衛）

今日のシンガポールと中国・ユーロコミュニズム（小山田太郎）

米中正常化と台湾問題（萩原耕吉）

83号（1977年7月）

毛沢東主義の行方（小杉修二）

毛沢東選集第五巻を読んで（尾崎庄太郎）

84号（1977年8月）

中国の転換の当面の到達点（山口正之）

毛沢東選集第五巻を読んで（補遺）（尾崎庄太郎）

85号（1977年9月）

毛沢東の過渡期階級闘争論批判（三）（高橋勇治）

鄧小平再復活の舞台（松永義衛）

全党全国各項工作の総綱を論ず（訳：尾崎庄太郎）

86号（1977年10,11月）

【対談】第十一回大会を読む（松永義衛，上原一慶）

中国共産党第十一回全国代表大会関連資料

中国政治の虚像と実像（そのⅠ）：『毛沢東選集』第五巻の検討（石川賢作）

87号（1977年12月）

中国経済の近代化と賃上げ問題（米沢秀夫）

88号（1978年1月）

中国政治の虚像と実像（そのⅡ）：『毛沢東選集』第五巻の検討（石川賢作）

89号（1978年2月）

【対談】「四人組」批判の現段階とその特徴（加藤栄治，丸山昇）

90号（1978年3月）

アジアの覇権をめぐる日中米の選択（山口正之）

91号（1978年4,5月）

第五期全国人民代表大会（座談会）（稲子恒夫，田口富久治，林高之，井手啓二，桜井明治）

中国の新憲法（稲子恒夫）

第五期人民代表大会の周辺（加藤栄治）

なぜ華国鋒政権は「三つの世界論」を必要とするのか：華政権の現状分析（渡辺俊彦）

中国政治の現段階；毛沢東主義の動揺（小杉修二）

「風派」「溜派」「震派」批判：『人民日報』の論調（松永義衛）

第五期全国人民代表大会の人事について（松本昭子）

【資料】 人民代表大会関連資料

第五期全人代での憲法修正に対する意見（『七十年代』2月号掲載論文）（朱養民 [高橋博訳]）

92号（1978年6月）

78年中国憲法をめぐる（上）：民主主義と適法性（藤田勇）

尖閣列島事件と日中関係（森田勝巳）

ベトナムからみたカンボジアと中国（金子徳好）

【資料】 尖閣列島に関する中華人民共和国の声明（1971年12月30日）

【資料】 尖閣列島に関する声明（国民党革命委員会部分委員，1978年4月10日）

93号（1978年7月）

中国新憲法考（高橋勇治）

日中平和友好条約と友好関係の原則（家正治）

第五期全人代と日・中・米の軍事関係（林高之）

94号（1978年8月）

中国経済10ヵ年計画の問題点（米沢秀夫）

78年中国憲法をめぐる（下）：民主主義と適法性（藤田勇）

「四つの現代化」にみる中国の政治（渡辺俊彦）

ベトナム・カンボジア紛争を読む（桜井明治）

95号（1978年9月）

今日の中国・ベトナム紛争について（古田元夫）

資料：中国側の報道，ベトナム側の報道（中国・ベトナム紛争）

林彪・四人組批判の方法を問う（尾崎庄太郎）

96号（1978年10月）

【対談】 中国をみつめて：日中平和友好条約を読む（柴田穂，戸張東夫）

民主的なアジア・太平洋新秩序のための試論的検討：日中条約の締結を中心に（山口正之）

日中平和友好条約の検討（家正治）

日中平和友好条約関連資料

97号 (1978年11月)

毛沢東批判は広がり深まる (戸張東夫)

【資料】「毛沢東は誤りを犯さない」という神話を打ち破ろう (斉辛)

中国・ベトナム紛争と東南アジア華僑 (林高之)

アフリカにおける中国の影 (S・W・ロヒオ, 成田良雄 [インタビュー])

日中条約締結後の課題 (和田一夫)

98号 (1978年12月)

スターリンの中国政策とその思想構造 (渡辺俊彦)

米中接近は「脱文革の一步」か「反ソ主義の補強の一步」か: 山口正之氏の中国論の問題点と根源 (小林修二)

中国の宇宙開発の現状と将来について (小林幹夫 [解説])

【特別訪問記】香港誌『七十年代』掲載: 周揚, 歴史の功罪を語る (高橋博 [訳])

99号 (1979年1月)

中国共産党の新たな権力闘争 (斉辛 [香港誌『七十年代』掲載])

【特別訪問記】香港誌『七十年代』掲載: 周揚, 歴史の功罪を語る (下) (高橋博 [訳])

100号 (1979年2,3月)

【座談会】米中外交・毛沢東批判 中国はどこへゆくのか (柴田穂, 中嶋嶺雄, 戸張東夫)

資料・壁新聞 民主が独裁を裁く／毛主席の晩年の誤り／思想を解放し, 真理をときあかそう ほか

壁新聞への過程: 『人民日報』などの論点からみて (松永義衛)

彭徳懐・その人といわゆる「彭徳懐事件」について (姫田光義)

「中国人として育った私」を書いて 「紅衛兵だった私」を読む (西条正)

現代学生の中国認識を探る: アンケート調査を下に (お茶の水女子大学中国研究会)

社会主義諸国にたいする中国の姿勢と諸国の対応（副島種典）
中国の近代化と日本の資本（山口正之）

101号（1979年4,5月）

【対談】中国・侵略する側の論理（戸張東夫，古田元夫）

【資料】ベトナム政府声明・中国政府声明

中越紛争と『人民日報』報道（松永義衛）

中国のベトナム侵略：その対外政策のいきつくところ（山口正之）

知識人の復権—「文化大革命」終結後の中国文学（高橋俊男）

毛沢東批判の限界点（尾崎庄太郎）

教育革命はどこへゆくか（松本昭子）

彭徳懐・その人といわゆる「彭徳懐事件」について（中）（姫田光義）

102号（1979年6月）

【対談】「北京の春」はすぎて：三中全会から中ソ条約廃棄まで（戸張東夫，上原一慶）

「文化大革命」と「文芸講話」（伊藤敬一）

趙樹理の死（小林二男）

現代中国に残る伝統政治の発想（橋本堯）

103号（1979年7月）

【インタビュー】ベトナム・カンボジア現地報告（中村悟郎〔聞き手：北畠霞〕）

陳若曦の長編小説《帰》とプロレタリア文化大革命（高橋俊男）

物価にみる中国の庶民生活（柚岡一禎）

104号（1979年8,9月）

毛沢東の旗と民主，法制（稲子恒夫）

三中全会から中越戦争への過程：『人民日報』の論調（松永義衛）

第五期全人代第二回会議の人事（松本昭子）

【資料】国務院（内閣）各省の機構と閣僚

105号（1979年10月）

中国の法と新しい法律（稲子恒夫）

「中華人民共和国刑法」についての覚書（上田寛）

中国内外日誌（1979年4月）

106号（1979年11月）

米中果てしなきパートナーシップ：『人民日報』の論調（松永義衛）

中国の印象：生活向上への国民的息吹と経済政策（渡辺基）

カンボジアの解放と新生：光明と前途の困難（副島種典）

中国内外日誌（1979年5月～7月）

107号（1979年12月）

「李一哲の大字報」続編：プロレタリア階級の階級独裁のために（王希哲）

中国の海底油田開発をめぐる動き（谷原順夫）

我が党の「八回大会」の偉大な歴史的意義についての試論（黎洪〔福地桂子訳〕）

資料・中国の治安立法 中華人民共和国治安管理処罰条例・労働教育問題にかんする国務院決定（稲子恒夫〔解説〕）

何を期待するか、中国：最近の米、日、中関係（和田一夫）

108号（1980年1月）

【座談会】中国にとって民主化は可能化か 資料／魏京生裁判の経過・人権問題について（芝田進午、斎藤道彦、丸山昇）

80年代中国の出発点（山口正之）

思想面から見た脱「文革」の最大の障害物（尾崎庄太郎）

【連載】「暗黒の十年」前後（小野沢亘）

109号（1980年2月）

中国覇権主義と民主化抑圧（松永義衛）

現代中国認識の立場と方法およびあり方について；中国社会主義30年の到達点（斎藤道彦）

大平訪中：「世界のなかの日中関係」（山口正之）

中国における軽工業について—「大躍進」期前後の軽工業の若干の諸問題（塚本隆敏）

中国経済の発展の道はけわしい（米沢秀夫）

【連載】「暗黒の十年」前後（小野沢亘）

110号（1980年3月）

【インタビュー】アフガニスタン，その危機を探る：アフガニスタンに
潜む中国の黒い策謀（山崎聡）

一青年のみた中国（下村武彦）

わたしのなかの中国（回想私記）（徳永淳子）

111号（1980年4月）

【インタビュー】日中合弁にみる中国の選択（沼田朗）

【資料】中華人民共和国中外合資経営企業法

激動する世界と模索する中国（山口正之）

「蜜月時代」から「米中安保協力」へ：危険なブラウン訪中（渡辺襄）

【連載】「暗黒の十年」前後（小野沢亘）

112号（1980年5月）

劉少奇名誉回復・文革逆転判決への道：五中全会と民主化を読む（松
永義衛）

文革派の後退と鄧派の進出：五中全会の人事をみる（松本昭子）

五中全会の後にくるもの（山口正之）

【連載】わたしのなかの中国（回想私記）（徳永淳子）

中国共産党第十一期中央委員会第五回総会関連資料

中国周辺整理メモ（抄）

中国関係書出版目録（1980年1月～2月）

【資料】少数民族の人口と分布地域

113号（1980年6月）

毛沢東批判の限界点（高橋勇治）

魏京生事件と民主化運動の抑圧（尾崎庄太郎）

【連載】「暗黒の十年」前後（小野沢亘）

中国人民解放軍の戦略転換（渡辺俊彦）

114号（1980年7月）

激動のなかでの「冷静実務」会談：華国鋒の来日（山口正之）
【資料】日中共同新聞発表（全文）・華国鋒首相記者会見（要旨）
民主化運動の抑圧と今後の民主化闘争の課題（尾崎庄太郎）
「四つの現代化」と政治・哲学論争（そのⅠ）（石川賢作）
マルクス主義の中国化（稲子恒夫）
【連載】「暗黒の十年」前後（小野沢亘）

115号（1980年8月）

民主主義の方向（王希哲〔訳・鳴海三郎〕）
中国の法学者の関心事（稲子恒夫）

116号（1980年9月）

社会主義と日中友好運動を語る（柳田謙十郎，重沢俊郎）
毛沢東批判はどこまで可能か：五人代への道（松永義衛）
「四つの現代化」と政治・哲学論争（そのⅡ）（石川賢作）
【連載】わたしのなかの中国（回想私記）（徳永淳子）

117号（1980年10,11月）

【対談】何をなそうとするのか中国（中嶋嶺雄，戸張東夫）
全人代第三回会議にみる中国経済の“視角”（松田正次）
中国の憲法改正と新婚姻法（稲子恒夫）
文革派一掃の第二段階：全人代の人事にみる（松本昭子）
文革，毛沢東批判の現状（松永義衛）
中国の経済改革（米沢秀夫）
アジア的生産様式，アジア的専制主義ならびにアジアのプロ独裁（尾崎庄太郎）
第五期全国人民代表大会第三回会議関連資料

118号（1980年12月）

現代の学生と中国認識（座談会）（広瀬昇，新孝一，永井昭夫，豊田恭子，駒宮幸枝）
学生の中国意識アンケート調査（早稲田大学中国研究会）
アメリカの中国研究への一視点：ベンジャミン・シュウオルツの中国

論(渡辺俊彦)

中国の新婚姻法・再論 (稲子恒夫)

【連載】「暗黒の十年」前後 (小野沢亘)

【資料】中華人民共和国婚姻法・中華人民共和国国籍法・中華人民共和国中外合資経営企業所得税法

119号 (1981年1月)

レーガン圧勝と米・日・中関係 (山口正之)

中国民主運動と鄧・趙体制 (渡辺一衛)

【インタビュー】山本薩夫, 訪中を語る (山本薩夫)

「四つの近代化」と教育 (松本昭子)

【連載】わたしのなかの中国 (回想私記) (徳永淳子)

【資料】各国の党の自主独立の原則

120号 (1981年2月)

裁かれるのは誰か? : 「林彪・四人組反革命集団」裁判への所感 (姫田光義)

林彪, 江青集団裁判特別検察庁の起訴状

林彪反革命クーデター破綻記

121号 (1981年3月)

【インタビュー】鄧小平の陰謀 (加藤栄治)

中国の経済改革は中国経済を軌道にのせられるか (塚本隆敏)

【資料】林彪・江青反革命集団事件判決書, 正義の判決: 『人民日報』社説, 林彪・江青反革命集団事件従犯六十人

122号 (1981年4月)

大型プラントの契約破棄と中国経済の背景: 経済再調整の波紋 (松田正次)

中国海底油田調査・開発計画をめぐって (谷原順夫)

「林彪・江青集団」裁判の感想 (松永義衛)

中国民主化運動の底流と逆流 (渡辺俊彦)

中国経済界の現状の一断面: 薛暮橋『中国社会主义經濟問題研究』を讀

んで（副島種典）

【資料】中華人民共和国外貨管理暫定条例

123号（1981年5月）

現存社会主義をどうとらえるか（井出啓二）

毛沢東と文化大革命（上）（王希哲〔訳・渡辺俊彦〕）

【連載】「暗黒の十年」前後（小野沢亘）

124号（1981年6月）

毛沢東選集の翻訳・出版をめぐる二、三の思い出（尾崎庄太郎）

毛沢東と文化大革命（下）（王希哲〔訳・渡辺俊彦〕）

【連載】わたしのなかの中国（回想私記）（徳永淳子）

125号（1981年7月）

日米共同声明と中国の対外路線（山口正之）

中国の現状と将来：民主と法制を中心に（姫田光義）

中国の再生と毛沢東主義（上）（田中祥之）

日本共産党に対する人民日報の表記について

中国農業政策の「歴史的転換」：大寨型から各戸請負制の容認まで（渡辺基）

中国引揚者の内側（上条厚）

126号（1981年8月）

中国の国家目的と今日の中国論：「理念モデル」論的中国社会主義批判（小杉修二）

中国の再生と毛沢東主義（下）（田中祥之）

教科書の記述にみられる十五年戦争（徳武敏夫）

【連載】わたしのなかの中国（回想私記）（徳永淳子）

127号（1981年9月）

【対談】「歴史決議」をどう評価するか（上原一慶，斎藤道彦）

「六中全会」と中国の動向：「歴史決議」を読む（松永義衛）

鄧・胡体制の成立か：六中全会の人事をみる（松本昭子）

【資料】建国いろいろの党の若干の歴史的問題についての決議（全文）・（上）

128号 (1981年10月)

毛沢東信仰崩壊の意味 (田中祥之)

「歴史決議」で深められなかった問題と最近の学術論争の二、三 (尾崎庄太郎)

【連載】わたしのなかの中国 (回想私記) (徳永淳子)

【資料】建国いらいの党の若干の歴史的問題についての決議 (全文)・
(下)

129号 (1981年11月)

中国の国家目的と経済建設 (上): 超大国志向の社会主義における経済と政治 (小林修二)

130号 (1981年12月)

中国の国際関係と「歴史決議」 (石川賢作)

土地と生産手段の国有化について: 中国社会主義の再検討 (溝口貞彦)

中国の国家目的と経済建設 (下): 超大国志向の社会主義における経済と政治 (小林修二)

131号 (1982年1月)

世界史の現段階と社会主義国との友好運動 (藤田勇)

【座談会】友好運動に未来はあるか (柴田政利, 小林克己, 和田一夫)
中国雑感: 変わる中国と変わらない中国: 僕を追放した国に愛を込めて (横山宏章)

【連載】わたしのなかの中国 (回想私記) (徳永淳子)

時評: 中国, 経済政策で対立 (松永義衛)

132号 (1982年2月)

絶望的回想と観察 (劉青)

人民主権と民主主義 (柳春生)

忘れられた下放青年: 中国社会主義の現実 (渡辺俊彦)

劉賓雁と中国社会主義: 四川省に取材した作品を中心に (太田秀夫)

【連載】わたしのなかの中国 (回想私記) (徳永淳子)

時評: 中国, 新経済構想を模索: 開放政策の“聖域” 拡がる (松田正次)

133号 (1982年3月)

米中対立するか (戸張東夫)

文革理論の哲学的源流についての二、三のメモ (尾崎庄太郎)

【連載】わたしのなかの中国 (回想私記) (徳永淳子)

時評：米中間にあつれき (松永義衛)

134号 (1982年4月)

米中野合とアメリカのディレンマ：レーガン政権下の米中関係 (川本謙一)

劉賓雁と中国社会主義 (続)：百花斉放期の二つの作品と「人妖之間」 (太田秀夫)

中国農業の一断面：蚕産業からのアプローチ (吉武成美, 佐藤忠一)

時評：模索する中国の内外政策 (松永義衛)

135号 (1982年5月)

「苦恋」事件始末 (高島俊男)

「文芸講話」批判問題・覚書—胡喬木による“批判”をめぐる (宇野木洋)

【連載】わたしのなかの中国 (回想私記) (徳永淳子)

時評：汚職・機構改革をめぐる (松永義衛)

136号 (1982年6月)

激論、中国式「行政改革」を斬る (戸張東夫, 橋本広文)

社会主義世界体制の発展と問題点 (三野昭一)

日中国交回復十周年：日中復交十周年と八十年代の展望 (山口正之)

対台湾武器売却決定 (石川賢作)

137号 (1982年7月)

中国の新憲法草案 (稲子恒夫)

中国の改正憲法草案への雑感 (松永義衛)

18年目の中国—老舎研究の旅あれこれ (1) (伊藤敬一)

中国の経済計画と市場問題 (米沢秀夫)

【連載】わたしのなかの中国 (回想私記) (徳永淳子)

時評：米中・中ソ危険な図式（石川賢作）

【資料】中国新人事，中華人民共和国憲法改正草案

138号（1982年8月）

劉賓雁と中国社会主義（完）：社会主義ヒューマニズム論を中心に（太田秀夫）

18年目の中国，老舎研究の旅あれこれ（2）（伊藤敬一）

時評：趙紫陽首相来日をめぐる（石川賢作）

戦後37年，中国残留者問題（工藤静子）

139号（1982年9月）

【連載】わたしのなかの中国（回想私記）（徳永淳子）

18年目の中国：老舎研究の旅あれこれ（3）（伊藤敬一）

時評：問われる中国の外交姿勢（松永義衛）

140号（1982年10,11月）

【対談】問題は「侵略」か（高橋碩一，戸張東夫）

戦後教育政策の展開と今日の教科書問題（大谷正）

中国でみた教科書問題（溝口貞彦）

高校生は「侵略と」と「進出」をどうみたか（吉村徳蔵）

18年目の中国：老舎研究の旅あれこれ（伊藤敬一）

アンケート：戦争を考える

中国の教科書批判とその結果（松本昭子）

【資料】中国に進出する日本企業

中国は訴える

1981年度検定の具体例 高校日本史・世界史

141号（1982年12月）

【インタビュー】台湾は何処へ（戸張東夫）

魯迅の孫・周令飛の体験：わが三十年を語る（周令飛 [訳・花岡久]）

中国共産党第十二回大会と国際関係（石川賢作）

鈴木訪中と日中復交十周年（荻原耕吉）

中国における農業研究の動向と生産性について：桑栽培の立場から

(小野松治)

時評：「文革」色・「文革」派の一掃か（松本昭子）

中国研究月報

1号(1947.3)～現在、東京：中国研究所
335号(1976.1)～418号(1982.12)
大阪大学附属総合図書館(調査：和田英男，2018年6月)

335号(1976年1月) なし

336号(1976年2月)

【座談会】21世紀にいどむ中国農業：“農業は大寨に学ぶ全国会議”を
めぐって(〔司会〕山地進，近藤康男，阪本楠彦，菅沼正久)

337号(1976年3月)

「農業は大寨に学ぶ運動」の新段階(菅沼正久)

338号(1976年4月)

【座談会】周総理を偲ぶ(西園寺公一，新井宝雄，岩村三千夫〔司
会〕)

継続革命下の中国におけるブルジョア的権利の存立と制限(杉野明
夫)

339号(1976年5月) なし

340号(1976年6月)

中国の社会主義革命論と新憲法(大関正道)

341号(1976年7月)

鄧小平問題・天安門事件におけるマスコミの「常識」に反論する(藤井
満州男)

342号～343号 なし

344号(1976年10月)

人師毛沢東主席を敬弔する(伊藤武雄)

毛主席を追悼して：毛主席に関するいくつかの誤ったイメージを正す

試み（藤井満州男）

345号～346号 なし

347号（1977年1月）

【座談会】華国鋒主席の指導する中国 これからの展望（秋岡家栄，山内一男，藤井満州男）

348号～349号 なし

350号（1977年4月）

鄧小平批判運動と「四人組」批判（杉山市平）
「四人組」批判と華国鋒体制の成立（藤井満州男）

351号（1977年5月）

毛主席の革命路線（藤井満州男）
毛主席・周総理と日中関係（三沢二郎）

352号（1977年6月） なし

353号（1977年7月）

矛盾論と現代中国法（田中信行）

354号（1977年8月）

中国社会主义経済建設の諸問題 「工業は大寨に学ぶ」全国会議をめぐって（小嶋正巳，武吉次郎，山内一男 [問題提起]）
中国の1976年第4・四半期以来の動き：開催された全国的会議を中心に

355号（1977年9月）

毛主席の逝去1周年に当たって（藤井満州男）
【写真特集】毛沢東：革命の生涯

356号～357号 なし

358号（1977年12月）

中国の“3つの世界”論をめぐる若干の問題：1977年11月1日付『人民日報』編集部論文を中心に（藤井満州男）

359号～360号 なし

361号（1978年3月）

219号 (1977年3月)

第三世界と社会主義の再生 (ポール・M・スティージー)

児童の眼に映った「満州」像その1 (尾崎秀樹)

220号 (1977年4月)

現代中国の革命と政治文化 (宇野重昭)

児童の眼に映った「満州」像その2 (尾崎秀樹)

221号～227号

なし

228号 (1977年12月)

中国「四人組」考 (菊池昌典)

大寨・大慶の道を歩む中国 (藤村俊郎)

229号～232号

なし

233号 (1978年5月)

社会主義社会と現代化 (菊池昌典)

234号～235号

なし

236号 (1978年8月)

中国で二度の涙 (橋本峰雄)

- 125号 (1977年11月)
中国の新しい政治体制 (中嶋嶺雄)
- 126号 (1977年12月)
米中関係の展望 (小尾敏夫)
- 127号 (1978年1月)
中国の運輸問題 (奥井俊史)
- 128号 (1978年2月)
中国の裁判制度とその実情 (大野正男)
- 129号 (1978年3月)
中国人民解放軍と民兵の実態 (海原治)
- 130号 (1978年4月)
中ソ関係のなかでみたインドシナ (三尾忠志)
- 131号 (1978年5月)
全国人民代表会議、政治協商会議 “第二の長征” 現代化の体制決する
(江頭数馬)
中国で感じたこと (守屋洋)
- 132号 (1978年6月)
鄧小平再復活後の中国の権力体制 (岡部達味)
八〇年代に向けての大国のアジア戦略 (伊豆見元)
- 133号 (1978年7月) なし
- 134号 (1978年8月)
日中長期貿易取り決めと中国経済 (市川衛門)
- 135号 (1978年9月)
日中 “片面条約” の帰結 (永井陽之助)
- 136号 (1978年10月)
日中条約の国際政治上の意味 (阪中友久)
激化した地方のおおいかくし派摘発 (江頭数馬)
米中連携の諸問題 (宇佐美滋)
日中経済交流の新段階 (山本剛士)

137号 (1978年11月)

中国の国防産業 (前田寿夫)

華国鋒政権下の軍事論争：一九七七年の中共中央軍事委員会会議について (平松茂雄)

米国のアジア戦略と日中条約

アメリカ合衆国と中華人民共和国

四人組の文学者迫害と名誉回復 (相浦)

利潤概念導入して企業管理改革

138号 (1978年12月)

鄧小平来日に残したもの (松井章)

鉄橋に大きな足跡：鄧副首相の来日 (伊藤正)

鄧小平訪日と人民日報

中国は尖閣列島をこう見ている：鄧副首相の記者会見から
北京に嵐の前ぶれ，呉徳主任解任

139号 (1979年1月)

東南アジアの中ソ対立 (岡部達味)

天安門事件に逆転判決，噴出した毛批判

中ソ対立と東南アジア (林理介)

140号 (1979年2月)

華国鋒政権下の軍事論争と全軍政治工作会議 (平松茂雄)

党第十一期三中全会開催：近代化建設への基本確立

台湾の運命

中国の新建設を見て

四人組批判に幕，経済建設に全力

141号 (1979年3月)

四つの近代化と民主化 (泉青)

中越国境ついに火を吹く

鄧小平副首相の訪米

中南海に農民デモ

白日にさらされた文革中の残虐な迫害（野上正）

142号（1979年4月）

中国のベトナム戦略（田所竹彦）

朝鮮・中越に迷惑の“非同盟”（刀光）

近代化建設の手直し：製鉄の順位低下（蔵居良造）

朝鮮南北対話と鄧小平発言

中国民族ブルジョア階級に対する政策

米中国交と台湾の“安全”：米の立法化完了

新農業政策と極左思想の克服

日中関係の過去と将来（小川平四郎）

華僑問題分析の新しい視点（栗本弘）

143号（1979年5月）

緊密化する米中経済関係と日本（山田康博）

「学大塞」から「作業班」へ：下を向く人民公社制度

撤退から会談へ：中越関係改善への険しい道のり

中越関係悪化の背景と今後

中国12年ぶりの再訪（江頭数馬）

144号（1979年6月）

調整しつつ合理的方法へ前進（渡辺長雄）

現地に見る大転換期の中国：上海、成都、昆明、北京を旅して（野上正）

文革の否定と新経済政策（本橋渥）

145号（1979年7月）

【時評】 四つの基本原則

【随筆】 はじめて中国で暮らした頃（小野嘉子）

【随筆】 スレ違い（三品鼎）

根深い中越間の民族的対立（三尾忠志）

【カレント】 流動する中国の政局

【カレント】 変わる中国の経済管理機構

【講演記録】 外国人のみた日本とアジア（グレゴリー・クラーク）

半世紀にわたる中国の外交政策

146号（1979年8月）

【時評】中国のSALT IIへの反応

【随筆】中国を展望して（清水安三）

【随筆】渝州瞥見（鈴木弘道）

【随筆】中国研究者のしらけ（波多野善大）

文革路線に決別した中国：彭真，薄一波ら要職に返り咲く（野上正）

統計にみる中国経済の実態（蔵居良造）

周恩来の生家を訪ねて：幼少期についての新しい発見（小川平四郎）

【カレント】日中貿易契約再開の動き

【講演記録】中国経済の成長力を占う（金森久雄）

【書評】『台湾総覧』一九七九年版

147号（1979年9月）

【随筆】鄭伯奇さん

【随筆】老舎の遺稿“正紅旗の下で”（立間祥介）

意外に大きい文革の打撃：北京，上海等主要大学を訪ねて（古島和雄）

深刻化した中国の雇用問題：浮上した社会主義制度の矛盾とその打開策（野上正）

【書評】『現代中国の権力と政治過程』

148号（1979年10月）

【時評】文革脱却をめざす理論研究

【随筆】中国庶民の未来感知：安東の追憶（阿部利夫）

経済成長期の中国を訪問して（相川宏）

愛情・青年描く中国文芸：劉心武，王蒙の作品を中心として（前田利昭）

【カレント】モンデール訪中の成果

149号（1979年11月）

【時評】中ソ再接近とソ連の脅威

【随筆】大型・中型・小型の覇権主義

【随筆】敦煌の旅（岡崎嘉平太）

【随筆】雲南旅情（金子量重）

新展開の日中経済協力：一兆二千億円借款の問題点（志村嘉一郎）

【調査】中国における物質刺激の賃金制度（秋吉祐子）

【カレント】建国三十周年を迎えた中国

【人物寸評】華国鋒，スハルト

【書評】『中国十億の人口問題』『日本の華僑』

150号（1979年12月）

【時評】民主化の壁は厚い

【随筆】中国でのショッピング（勝部元）

【随筆】幕末横浜に留清国人について（小林高四郎）

毛沢東神話の形成と崩壊（姫田光義）

【カレント】中国民主諸党派の復活とその意義

【人物寸評】鄧小平，リー・クァンユウ

【書評】『中国文化大革命の再検討』（上）（下）

151号（1980年1月）

【時評】課題山積，八〇年代の中国

【随筆】非政治化の進む中国：訪中旅行の経験を通じて（池井優）

【随筆】国策とアジア研究（原覚天）

【随筆】日中戦争と三国同盟（三宅正樹）

中国の成文法と「生きた法」：根強い共同体の伝統・定着にはイバラの道（今堀誠二）

【カレント】注目される中国の物価値上げとその影響

【カレント】台湾の新しい動向

民主化運動への締めつけ強まる（戸張東夫）

【人物寸評】賀子珍，崔圭夏

【書評】『中国人の発想』

152号（1980年2月）

【時評】不変の日中友好について

【随筆】香港の地下鉄論争（相川宏）

【隨筆】東南ア華人の信仰（窪徳忠）

【隨筆】中国の「農業学大塞」その後（菅野俊作）

【座談会】日中經濟協力の新段階：中国の現代化と円借款をめぐって
親米反ソ戦略は変わらないか（戸張東夫）

【人物寸評】徐向前

【書評】『孫子の兵法』『燕山夜話』

153号（1980年3月）

【隨筆】食糧危機の問題と中国食（顧中正）

桂林の旅今昔 南画の故里を民船遡航（岩田冷鉄）

党、政、軍の大異動始まる（戸張東夫）

【講演記録】最近の中国をめぐる諸問題（佐藤正二）

中国思想の自己主張（村松瑛）

【書評】『中国紅軍史』『したたかな隣人・中国』

154号（1980年4月）

【時評】露呈した社会主義体制の矛盾

【隨筆】中国雑感：建前と本音（金谷治）

アメリカのチャイナ・カード論争（高松基之）

中国外交とアジア：ソ連のアフガン侵攻以降（清水学）

党五中全会で「すべて派」を一掃（戸張東夫）

【書評】『北京の春』『香港雑学ノート』『中国ことばの散歩』

155号（1980年5月）

【時評】中国の信用度を評価する

【隨筆】上海の今昔（岩尾正利）

【報告と討議】呉承明氏（中国社会科学院）をかこんで

中国の近代化と劉少奇復権（小島朋之）

集団指導の強化をよびかける（戸張東夫）

【カレント】中ソ関係が無条約状態に

156号（1980年6月）

【時評】中国の指導者交代の条件

【随筆】障害を中国人教育に（近藤恒夫）

【随筆】先儒追想旅行（佐藤一郎）

【随筆】留学三都物語（高市恵之助）

【留学】“シナ”か“中国”か（高橋正）

現代化急ぐ中国の国防と戦略：栗裕国防部副部長と会談して（岩島久夫）

中国の経済改革と日中経済関係（丸山伸郎）

長春における日本語教育 伊藤芳照

【カレント】高雄暴動事件と波紋

アジアの大学・色濃い植民地的性格：香港（石川啓二）

【プロフィール】陳慕華

【書評】『肌で感じた新中国』

157号（1980年7月）

日中安成長時代への布石：華国鋒首相訪日の意味するもの（近藤仁志）

劉少奇追悼会は開かれたけれど

中共五中全会と劉少奇の復権（徳田教之）

転換期中国の問題点（蝶）

158号（1980年8月）

中国経済の直面する困難性（鄭竹園）

日中協力で、アジアの安全を（岡崎嘉平太）

中国のICBM実験成功

チベット、ダライ・ラマ、中印国境

159号（1980年9月）

中国教育事業発展の三十年（上）（顧明遠）

毛沢東を「面と向かって」批判せよ

見直される中国の封建制度（刀光）

160号（1980年10月）

中国教育事業発展の三十年（中）（顧明遠）

中国の大胆な資本主義的実験（蝶）

毛沢東評価で党内に妥協成立？

改善のきざし見えるか中印関係（瀬木博道）

161号（1980年11月）

趙紫陽新首相登場の背景（伊原吉之助）

実務派体制を確立した中国（正）

中国教育事业発展の三十年（下）（顧明遠）

中国のソ連研究の新局面（佐久間邦夫）

中国の婦人問題の所在（秋吉祐子）

華国鋒時代に決別した全人代

八〇年代の中国の対外政：「近代化のための外交」の行方を探る（桜田二郎）

162号（1980年12月）

進展するか米中軍事協力（刀光）

林彪，江青グループ，一括裁判へ

163号（1981年1月）

橘樸と現代中国研究（山本秀夫）

裁かれる「林彪，江青反革命集団」

ダライ・ラマ八一年中にも帰国か

中国の金融財政改革（蝶）

164号（1981年2月）

中国の現代化と人口対策（若林敬子）

追いつめられた華国鋒党主席

台湾で中央民意代表補選

中国の政策大転換の前途（正）

165号（1981年3月）

拡大する中国の経済調整：華国鋒解任で政争激化（矢吹晋）

中国からの留学生（平）

江青女史に死刑（猶予二年）判決

「林彪事件」およびその裁判（姫田光義）

166号（1981年4月）

迫られる日本政府の対応（山本剛士）

引き締め強化で経済危機克服？

中国破約の背景と対応：現地の印象を交えて（渡辺長雄）

“新冷戦”の中の中国（刀光）

167号（1981年5月）

今後十年の中国経済：見通しと問題点（前田寿夫）

文芸界は厳しい冬の時代

中国の弱い政策決定機構（蝶）

168号（1981年6月）

大きくなった農民人民公社（野上正）

著名作家が名指し批判される

日中関係の現状について思う（平）

169号（1981年7月）

文革後・中国法制の特質：人権と民主に例外規定（向山寛夫）

中国における辺境と中心：新疆騒乱と民主化運動の行方（加々美光行）

北京をボイコットした葉劍英

中国の人口抑制政策と新婚姻法：その必要性和社会的背景（秋吉祐子）

170号（1981年8月）

中国の総括と新体制（蝶）

中印国境交渉開始で合意

鄧小平・胡耀邦体制がスタート

171号（1981年9月）

農村人民公社組織の大改革：万里副首相に聞き四川省に見る（田川五郎）

米国兵器導入の道開かれたが

中国のインドシナ外交（平）

172号（1981年10月）

辛亥革命研究史略論：七十周年の中国ブルジョワ革命（狭間直樹）

軍の圧力？胡耀邦氏が「苦恋」批判

最近の中国の政治情勢について：六中全会を終えて（岡部達味）

中国報道正常化への道（刀光）

173号（1981年11月）

中国：韓国貿易の動向（山田康博）

台湾に祖国復帰を呼びかける

ASEAN・日本・中国（蝶）

174号（1981年12月）

中国の外資利用と先進技術導入（小島末夫）

再浮上した国家主席復活問題

退廃の影と戦う中国文芸界（荻野脩二）

国共合作：福建省共同統治の提案（平）

175号（1982年1月）

【随筆】桂林・陽朔の旅（岡宗義）

辛亥革命の現代的意義：民族的共感と交流醸成（衛藤藩吉）

鄧小平の党風是正発言を特集（戸張東夫）

“二党制”に一步の台湾統一地方選

対中鉄鋼技術協力（浅川秀二）

中国武将列伝 悲劇の英雄 項羽（守屋洋）

時事中文点滴（6）党務費乱発 獎金の不合理（野上正）

【プロフィール】胡啓立

中国短信 北京模範監獄ほか

【新刊書】『中国再訪』『中国現代史』

176号（1982年2月）

【時評】中国経済建設の方向

アメリカの魯迅：生誕百年記念学会に参加して（丸山昇）

中国政治における軍の役割（清水徳蔵）

インドネシアと中ソの脅威（小林武治）

趙紫陽首相全人代で経済報告（戸張東夫）

【カレント】趙中国首相の北朝鮮訪問

【カレント】中印、十九年ぶりで国境交渉

【講演記録】北京より帰りて（吉田健三）

中国武将列伝 悲運の勇将 韓信（守屋洋）

新疆・今昔物語（上）：シルクロードの攻防戦の跡（長山義勇）

時事中文点滴（7）評判が悪い「先進」と「模範」（野上正）

177号（1982年3月）

【時評】米中関係のかげり

【随筆】チベット旅行（杉山信三）

【随筆】日華事変を前日に知った男（林青梧）

【随筆】武漢における学術討論会に出席して（坂野正高）

租借期限せまる香港の運命：英国の管理続くか（伊原吉之助）

孫文と東亜同文会（蔵居良造）

国务院（政府）の機構改革始まる（戸張東夫）

【カレント】台湾への武器売却の波紋

新疆・今昔物語（中）：シルクロードの攻防戦の跡（長山義勇）

時事中文点滴（8）（野上正）

中国短信 中日ソフトウェアセンター開設

178号（1982年4月）

【随筆】中国とゴルフ（鮎川信夫）

ひとびとの墓碑銘：文革犠牲者の追悼と中国文芸界のある状況（竹内実）

こじれる対台湾武器輸出問題（戸張東夫）

新疆・今昔物語（下）：シルクロードの攻防戦の跡（長山義勇）

時事中文点滴（9）（野上正）

中国短信

179号（1982年5月）

【時評】ソ連の平和攻勢と中ソ関係

【随筆】中国もう一つの長征（伊藤正孝）

【随筆】日中相互理解の盲点（村山孚）

【随筆】台湾取材旅行余録（横澤泰夫）

鄧小平の国防の近代化：“経済調整”に対応，正規軍建設へ（平松茂雄）

新憲法草案ようやくまとまる（戸張東夫）

【カレント】ブレジネフ提案に中国が素速い反応

時事中文点滴（9）（野上正）

書評『実像の中国』『新釈 蔡根譚』『問書』

180号（1982年6月）

【隨筆】老舎『正紅旗下』を読んで（太田辰夫）

「国共合作」を拒絶する台湾：平和的統一には時間と忍耐の要（パリス・H・チャン，田辺義雄訳）

問われる文革と一党体制：紅衛兵世代の「思想や境遇の変化」（小島朋之）

ベールをぬいだ鄧小平の憲法（戸張東夫）

アジアのビジネス 熱意と俠気と友情と 台湾ヤクルト会長 陳重光（林慧児）

時事中文点滴（11）（野上正）

181号（1982年7月）

【時評】厦門，高雄，鄭成功

【隨筆】中国と俳句（田能利忠）

十周年を迎えた日中関係：長期安定的友好が肝要（岡田臣浩）

中国における国民党史研究：国共合作をにらみ現代史再構成へ（山田辰雄）

中国と日本語（下）（鈴木修次）

微妙に変化し始めた中ソ関係（戸張東夫）

時事中文点滴（12）（野上正）

182号（1982年8月）

【時評】建国以後を総括した中国憲法

王竜から人民公社へ（重藤威夫）

現代中国における辛亥革命研究：武漢シンポジウム印象記（狭間直樹）

毛文芸思想どう継承すべきか（戸張東夫）

中国から日語教育者代表団招く：霞山会が国交正常化十周年事業の一

環に

時事中文点滴（野上正）

【書評】『革命，革革命，革革命』

183号（1982年9月）

【時評】日中国交正常化十周年を迎えて

【随筆】記憶の中の大連・旅順

現代中国における辛亥革命研究（2）革命史概説の新たな成果（石田米子）

【座談会】見てきた台湾の現状と行方（上）（江頭数馬，戸張東夫，湯浅誠）

教科書問題で日本を猛烈批判（戸張東夫）

人工知能と中国研究（村田茂）

アジアのビジネス 香港の不動産王 長江実業グループ会長 李嘉誠
（星野伊佑）

時事中文点滴（14）（野上正）

【プロフィール】杜星垣

【書評】『台湾総覧一九八二年版』幻の名門校・『東亜同文書院大学史』

184号（1982年10月）

【時評】中ソ歩み寄りの歩調

【随筆】私の満州旅行（大原信一）

現代中国における辛亥革命研究：黄興・宋教仁をめぐる（松本英幻）

【座談会】見てきた台湾の現状と行方（下）（江頭数馬，戸張東夫，湯浅誠）

党が軍指導する原則堅持せよ（戸張東夫）

中国武将列伝 民族の英雄 岳飛（守屋洋）

時事中文点滴（15）（野上正）

【プロフィール】宋之光

185号（1982年11月）

【時評】再び高成長指向の中国

鄧小平以後にらむ中国：十二全大会で指導機構を改革（戸張東夫）
“玉虫色”の米中コミュケ：台湾への武器供与問題で妥協（宇佐美滋）
人物と思想史の研究：章炳麟・孫文・康有為をめぐって（河田悌一）

【カレント】 サッチャー訪中の焦点

【カレント】 中朝関係の緊密さを誇示した金日成訪中
時事中文点滴（野上正）

【プロフィール】 秦基偉

186号（1982年12月）

【時評】 中国外交の行方

【随筆】 京劇の現状について（安念一郎）

【随筆】 上海：北京乗用車輸送作戦（田熊利忠）

中国と日中・アジア貿易の展望：望まれる北東アジアの経済交流（嶋
倉民生）

現代中国における辛亥革命研究“档案”の整理・刊行すすむ（清水
稔）

鄧小平が軍内の反対派に挑戦（戸張東夫）

【カレント】 関係修復で合意した中・仏共産党

【講演記録】 中国の抱える諸問題と庶民感情（田川五郎）

時事中文点滴（野上正）

【プロフィール】 呉学謙

中国『胡眼の旅』：鑑真の揚州歴史の西安を中心に（柴田勝彦）
1568号（1982年10月）

なし

文藝春秋

1 卷 1 号 (1923.1) ~ 現在, 東京: 文藝春秋社
54 卷 1 号 (1976.1) ~ 60 卷 12 号 (1982.12)
大阪大学附属総合図書館 (調査: 岡野翔太, 2018 年 4 月)

54 卷 1 号 (1976 年 1 月) なし

54 卷 2 号 (1976 年 2 月)
世界のふるさと料理⑧<中国> (陳舜臣)

54 卷 3 号 (1976 年 3 月) なし

54 卷 4 号 (1976 年 4 月)
世界のマスコミ 「発見された故周恩来首相の遺書: ソ連の対中政策の真意」

54 卷 5 号 (1976 年 5 月)
中国を解くカギ・食糧問題: 「農業は大業に学ぼう」と叫ぶ毛沢東の真意を探る (中国を考える会)

54 卷 6 号 (1976 年 6 月)
天安門事件を占う: 日本の新聞が書けない中国のナゾをどう解けばいいか? (林景明)

54 卷 7 号 (1976 年 7 月) なし

54 卷 8 号 (1976 年 8 月)
世界のマスコミ, 毛以後の中ソ和解はありうるか: 米中ソ三極外交の行方

54 卷 9 号 (1976 年 9 月) なし

54 卷 10 号 (1976 年 10 月)
北京の地震: こんどはなぜ地震予知ができなかったか (夏之炎)

54 卷 11 号 (1976 年 11 月)
毛沢東なき中国はどうなるか: 未来小説北京のいちばん寒い冬 (夏之炎)

- 54 卷 11 号 (1976 年 11 月)
毛沢東の偉大と悲慘 (マーク・ゲイン)
- 54 卷 11 号 (1976 年 11 月)
わたしの中の李香蘭: 戦乱を二つの顔で生きた女の受け身の強さ (澤地久枝)
- 54 卷 12 号 (1976 年 12 月) なし
- 55 卷 1 号 (1977 年 1 月)
鑽天揚 (陳舜臣)
- 55 卷 1 号 (1977 年 1 月)
江青と毛沢東: ある夫婦の物語 (川島芳太郎)
- 55 卷 1 号 (1977 年 1 月)
北京のいちばん寒い冬 (夏之炎)
- 55 卷 2 号 (1977 年 2 月)
北京のいちばん寒い冬: 完結編 (夏之炎)
- 55 卷 3 号 (1977 年 3 月)
毛沢東のまぼろし: 八億人民に君臨した「東洋の巨人」とは一体、何者だろう? (鈴木明)
- 55 卷 4 号 (1977 年 4 月)
わが弟・王貞治 (王鉄城)
- 55 卷 5 号 (1977 年 5 月) なし
- 55 卷 6 号 (1977 年 6 月)
ソ連は中国に何をしたか: プレジネフ書記長への公開質問状 (夏之炎)
- 55 卷 7 号 (1977 年 7 月)
天安門が揺れた日: 北京からの極秘情報 (中邦仁)
天安門城壁の血涙詩: 事件後はじめて公開された中国民衆の真の声 (竹内実 [訳])
- 55 卷 8 号~55 卷 9 号 なし
- 55 卷 10 号 (1977 年 10 月)
鄧小平語録ベストテン: 名高い黒白猫論から痛烈な四人組風刺まで (林

景明)

55 卷 11 号 (1977 年 11 月)

満州の妖怪：岸信介研究 (田尻育三, 竹村好夫, 小野志朗, 塩田満彦)

55 卷 11 号 (1977 年 11 月)

二通の手紙：鄧小平論 (中邦仁)

55 卷 12 号 (1977 年 12 月)

中国の英語授業参観記：「外人客展示用」中国の裏に素顔の中国がある
(松野操平)

56 卷 1 号 (1978 年 1 月)

動き出した日中条約 (赤坂太郎)

56 卷 2 号 (1978 年 2 月)

なし

56 卷 3 号 (1978 年 3 月)

テロルの決算 (沢木耕太郎)

56 卷 4 号 (1978 年 4 月)

赤い近衛兵八三四一部隊：カゲで中国を動かしてきた毛親衛隊の正体
は(中邦仁)

北京大学入試 今と昔：第一号卒業生として中国統一入試に想うこと
(吉川祐子)

56 卷 5 号 (1978 年 5 月)

なし

56 卷 6 号 (1978 年 6 月)

尖閣列島は誰のものか：「領海侵犯」の裏に隠された中国の狙いは何
か(林景明)

56 卷 7 号 (1978 年 7 月)

なし

56 卷 8 号 (1978 年 8 月)

米中・このしたたかな関係 (松尾文太)

56 卷 9 号 (1978 年 9 月)

中国・ベトナムはなぜ仲が悪いか (川本邦衛, 近藤紘一)

56 卷 10 号 (1978 年 10 月)

なし

56 卷 11 号 (1978 年 11 月)

北京に敗れた外務省（小林裕）

天皇と鄧小平の会見：中国に対し戦後日本が抱く鬱積した想いととは（池田清）

“長谷川テルへの旅：「売国奴」と呼ばれた反戦エスペランチストの遺児を訪ねて、私は北京空に降り立った”（澤地久枝）

56 卷 12 号（1978 年 12 月）

十月二十三日のこと：日中両国にとり大事なものは現在と将来なのだ（田中美知太郎）

中国と戦った元兵士の感慨：条約が成立しても忘れることのできない過去（近藤芳美，駒田信二，伊藤桂一）

57 卷 1 号（1979 年 1 月）

鄧小平訪日語録の研究：「率直な発言」に籠められた深い感慨と苦悩（竹内実）

通産省：中国への危険な賭け 中国市場に殺到した企業群の甘い夢は醒めた（小木曾功）

57 卷 2 号（1979 年 2 月）

中国史書のなかの日本：「外国」の存在しない中国的世界観の面白さ（陳舜臣）

57 卷 3 号（1979 年 3 月）

中国の“自転車泥棒”裁判：文革後初めて公開された法廷で私は目撃した（葉山水樹）

57 卷 4 号（1979 年 4 月）

ベトナム進攻・その日の北京：鄧小平の断乎たる決意は何を意図していたか（三岡健次郎）

57 卷 5 号（1979 年 5 月）

中ソが和解する日：“中ソ戦争” どころか、いま中国は華国鋒派の粛清と“中ソ和解”の方向に着々と動いている（長谷川慶太郎）

四月十一日、そのとき日本は：「中ソ友好同盟条約」問題にみる外務省の矛盾（中嶋嶺雄）

- 59 卷 6 号 (1981 年 6 月) なし
- 59 卷 7 号 (1981 年 7 月)
日中 持味を尊重するの輪：卑屈にも居丈高にもならず大人の関係を持
て (衛藤藩吉)
- 中国作家の見た「初めての日本」：神戸ポートピアから新宿のバーまで、
日本各地を精力的に見聞した中国人作家の熱烈報告 (劉心武)
- 衝撃の近未来小説「北京幻想曲一九八X年」(夏之炎)
- 59 卷 8 号 (1981 年 8 月)
北京幻想曲一九八X年 (夏之炎)
- 59 卷 9 号 (1981 年 9 月)
北京幻想曲一九八X年 (夏之炎)
- 59 卷 10 号 (1981 年 10 月) なし
- 59 卷 11 号 (1981 年 11 月)
北京と長春 (林健太郎)
- 59 卷 12 号 (1981 年 12 月)
“国共合作”台湾人にこそいわせてほしい：台湾を植民地扱いする国民
党支配に異議あり (林景明)
- 60 卷 1 号 (1982 年 1 月)
北京の日の丸 (谷村新司)
- 60 卷 2 号～60 卷 6 号 なし
- 60 卷 7 号 (1982 年 7 月)
鄧小平の「魔女狩り」(現代中国研究会)
- 60 卷 8 号 (1982 年 8 月) なし
- 60 卷 9 号 (1982 年 9 月)
われらルンルン台湾旋風：日本人はハングリーじゃなくなったから
ね！(涂阿玉・郭源治)
- 60 卷 10 号 (1982 年 10 月)
「保利書簡」は私が書いた：雪崩をうった日中国交正常化とは何だった
か (中嶋嶺雄)

60 卷 11 号 (1982 年 11 月)

中国版“収容所群島”(F・バタフィールド)

夏之炎の最新「人民公社」事情 (夏之炎)

60 卷 12 号 (1982 年 12 月)

なし

流動

創刊号 (1969.12) ~1982年12月号 (1982.12), 東京: 東亜経済研究所
1976年1月特別号 (1976.1) ~1982年12月号 (1982.12)
大阪大学附属総合図書館 (調査: 和田英男, 2018年8月)

1976年1月号~10月号 なし

1976年11月号

毛沢東の死と中ソ対立 (北沢正雄)

書評: エクトワレ・マンダレ他編, 山本佑一訳「毛沢東を批判した紅衛兵」(小島祐三)

1976年12月号

機運が良すぎる中国政変報道

文革派の失墜と今後の中国 (北沢正)

1977年1月号~5月号 なし

1977年6月号

独立台湾への道 (史明)

1977年7月号 なし

1977年8月号 欠号

1977年9月号~1978年2月号 なし

1978年3月号

虚妄と権謀の中国《華一鄧》体制 (滝沢毅)

1978年4月号 なし

1978年5月号

ロクサーヌ・ウイトケ著/中島嶺雄他訳「江青」上・下 (木村剛)

1978年6月号~7月号 なし

1978年8月号

台湾＝アジアの孤児（楊杏庭）

1978年9月号～10月号 なし

1978年11月号

中国版「灰とダイヤモンド」の行方

1978年12月号～1979年6月号 なし

1979年7月号

戒厳令下における台湾人民の革命闘争（朱世紀）

1979年8月号～1980年1月号 なし

1980年2月号

毛沢東：中華思想とマルクス・レーニン主義（太田竜）

1980年3月号 なし

1980年4月号

米中国交回復後の台湾人民の革命闘争（朱世紀）

1980年5月号

毛沢東再考① 中国史における「兵」（新島淳良）

1980年6月号

毛沢東再考② 工人階級とイデオロギー（新島淳良）

1980年7月号

毛沢東再考③ 皇帝と官僚制（新島淳良）

1980年8月号

毛沢東再考④ 農村と農村革命（新島淳良）

1980年9月号

毛沢東再考⑤ マルクス主義と毛沢東（新島淳良）

1980年10月号

毛沢東再考⑥ プロレタリア文化大革命（新島淳良）

1980年11月号

毛沢東再考最終回 私説毛沢東伝（新島淳良）

1980年12月号～1981年9月号 なし

1981年10月号 欠号

1981年11月号～1982年2月号 なし
1982年3月号
 「中国」と竹内好の美学（田村紀雄）
1982年4月号～1982年10,11月合併号 なし
1982年12月号 欠号

著者索引

凡例：(1)漢字表記は一般的な日本語読みによった。

(2)カタカナ表記は各項目の最後に配置した。

あ

相川宏 102,103
会田雄次 27
赤坂太郎 117
秋岡家栄 93
明野義夫 36
秋山良照 68,69
秋吉祐子 103,106,107
浅井敦 29
浅川秀二 108
朝倉喬司 32
浅野輔 26
浅野達三 31
浅野雄三 31,77,113
アジア仏教徒代表団 46
阿部利夫 102
アメリカ国務省 43
鮎川信夫 109
新井宝雄 24,27,92
新井直之 19
新孝一 85
安藤彦太郎 5,6,15
安藤正士 29,36
安念一郎 112
アビト, R 34
アミン, S 34
アレクサンドロフ, I 45

い

いいだもも 38
家正治 80
池井優 52,103
池内秀樹 62
池田清 118
池田大作 19,20
石井明 75
石川昌 64
石川啓二 105
石川賢作 79,85,88,89,90
石川滋 60,61,62
石川忠雄 26,54,55
石川忠久 75
石田幹之助 68
石田雄 63
石田米子 111
伊豆見元 99
板橋隆彦 45
市井三郎 38
市川衛門 99
市川誠 24
井出啓二 77,79,87
伊藤喜久蔵 52,53
伊藤敬一 76,82,89,90
伊藤桂一 118
伊藤隆 73

伊東孝之 75
伊藤武雄 92
伊藤正 71,100
伊藤齊 5
伊藤正孝 109
伊藤光晴 4
稲子恒夫 79,82,83,85,86,89
犬養総一郎 69
猪野健治 30,33
井上清 34
井上靖 26
猪木正道 56
伊原吉之助 42,44,45,106,109
今井理之 37
今堀誠二 73,103
入江昭 8,62,72
入江啓四郎 36
入江通雅 43,44
色部義明 75
岩井利夫 52
岩尾正利 104
岩沢伸一 41
岩島久夫 105
岩田慶治 74
岩田礼 113
岩田冷鉄 104
岩垂弘 63
岩村三千夫 92

う

宇井純 98
上田寛 83
上原一慶 76,79,82,87
上村留 31
宇佐美滋 27,36,37,51,52,53,99,112
宇田禮 12
内田弘 31
内多允 37

宇野重昭 4,5,63,97
宇野木洋 89
梅沢忠夫 74
うらべまこと 119
ウィルキンソン, エンディミオン
9

え

江頭数馬 62,63,74,98,99,101,111
江藤淳 27
衛藤藩吉 5,50,52,54,55,56,108,120
江馬亮 4
エシエリック, J 62

お

王希哲 85,87
王健台 31
王若水 47,57
王鉄城 116
扇畑忠雄 113
大石悠二 62
大来佐武郎 73
大島龍三 22
大関正道 92
太田勝洪 3,30,31,34,60,62
太田辰夫 110
太田秀夫 88,89,90
太田竜 123
大谷健 19
大谷正 90
大塚博久 29
大根沢弥 66
大野正男 70,99
大原信一 111
大村新一郎 66
大森繁夫 9
大森繁雄 9,11
大森実 25

岡宗義 98,108
岡崎嘉平太 60,62,102,105
岡崎久彦 52
岡崎満義 39
岡田臣弘 74
岡田臣浩 110
岡田春夫 60
岡田英弘 52,55,56,58,73,74
岡田充 64
緒方貞子 37
岡部達味 36,51,99,100,107
小川平四郎 37,48,101,102
小木曾功 118
荻野脩二 108
荻原耕吉 90
奥井俊史 99
奥田央 60
奥原敏雄 71
小栗敬太郎 8
沖東介 38
尾崎庄太郎 77,78,79,80,82,83,84,
85,87,88,89
尾崎陞 65
尾崎秀樹 31,97
小山内高之 43
小山内宏 54
小沢遼子 31
押川雄孝 94
お茶の水女子大学中国研究会 81
小野松治 91
小野志朗 117
斧泰彦 10,14
小野嘉子 101
尾上悦三 71,98
小野沢亘 83,84,85,86,87
小尾敏夫 98,99
小山田太郎 78
折口二郎 33

か

夏之炎 115,116,120,121
夏洛 5
開高健 68
懐冰 39
貝塚茂樹 67,68,73
海原治 55,70,99
加々美光行 29,30,31,34,95,107
賀川一彦 65
郭源治 120
鹿沢剛 69
加地伸行 55
加地永都子 38
加地亘 78
加瀬英明 43
片桐為精 52
勝田吉太郎 26
勝部元 103
加藤明彦 50
加藤栄治 76,77,78,79,86
加藤寛昭 94
加藤祐三 63
金谷治 104
金森久雄 102
金子一秋 39
金子量重 103
金子徳好 80
釜屋修 15
上条厚 87
神谷不二 57,58
加茂雄三 37
河内四郎 5
河上民雄 23
川崎秀二 3
川島弘三 36,41,45
川島芳太郎 116
川田侃 22,62

- 河田悌一 112
 河地重蔵 36
 川本邦衛 117
 川本謙一 77,89
 河野健二 15
 姜新生 45
 ガガーリン, M 42
 カダール, C 51
 カチューラ, E 43,44,46
 カプラン, M 45
 カルダン, P 72
- き**
 喜入亮 49
 菊池昌典 8,18,62,94,95,97
 岸信介 73
 岸田純之助 7,8
 貴島聡 8
 喜田昭治郎 94
 北川登 33
 北沢正 122
 北沢正雄 32,122
 北沢洋子 4
 北詰洋一 58
 北畠霞 82
 木村明生 37,60
 木村光一 67
 木村剛 122
 木村哲三郎 8,62
 木村俊夫 3,18
 木村秀明 113
 木屋隆安 46,47,48,49
 桐村千春 34
 金田一春彦 73
 キーン, ドナルド 74
- く**
 陸井三郎 9
- 久住忠男 26
 沓沢喜勝 38
 工藤静子 90
 国頭義正 26
 久保卓也 10
 窪徳忠 104
 蔵居良造 98,101,102,109
 倉淵隆三 77
 栗栖継 39
 栗林忠男 8
 栗本弘 101
 黒田寿男 22
 桑原武夫 13
 桑原武 18
 桑原寿二 41,57,98
 グドリャフツェフ, V 44
 クラーク, グレゴリー 101
 グレボフ, オレグ 43
- け**
 下司上 66
 現代中国研究会 120
 ゲイン, マーク 73,116
 ゲオルギエフ, M 44
- こ**
 呉淇坪 47
 胡月偉 75
 呉承明 95
 顧中正 104
 顧明遠 105,106
 小泉信 23
 港一平 33
 黄華 43
 項廻光 44,47
 高節 44,46
 黄天才 45
 耿飈 70

黄文雄 47
康銘淑 42,43,44,46,47,48
高坂正堯 27,57
国際アムネスティ調査報告 45
小島末夫 108
小島朋之 9,10,13,14,104,110
小嶋正巳 93
小島祐三 122
小島洋三 23
小島麗逸 4,29,60
小杉修二 78,79,87
小谷秀二郎 55
小中陽太郎 4
小林克巳 88
小林高四郎 103
小林修二 81,88
小林武治 108
小林二男 82
小林文男 39
小林幹夫 81
小林裕 118
駒田信二 118
駒宮幸枝 85
近藤完一 4
近藤紘一 117
近藤竜夫 6,14
近藤龍夫 64
近藤恒夫 105
近藤仁志 105
近藤康男 92
近藤芳美 118
紺野純一 66
コーエン, A, ジェローム 7
ゴルバチェフ, B 44

さ

左玉瑾 18
斉幸 52

斉辛 81,119
斉茂吉 47
西園寺公一 25,26,92
西条正 39,70,73,81
斉藤秋男 29
斎藤一郎 6
斉藤孝 63
斎藤道彦 83,87
佐伯彰一 57
嵯峨薫 32
酒伊みつる 44
榊利夫 65,66
阪中友久 7,10,99
阪本楠彦 29,92
相良保彦 9,19
桜井明治 79,80
佐桑徹 45
佐木隆三 19
佐久間邦夫 31,94,106
桜田二郎 106
佐々木一司 65,66
佐々木更三 22
佐瀬昌盛 51
佐々克明 53
佐藤一郎 105
佐藤玄二 20
佐藤正二 104
佐藤慎一郎 50
佐藤忠夫 12
佐藤忠男 24
佐藤忠一 89
沢木耕太郎 117
澤地久枝 116,118,119

し

史明 122
塩田満彦 117
重沢俊郎 76,85

重藤威夫 110
司馬遼太郎 67,68,74,96
柴田勝彦 113
芝田進午 83
柴田俊治 7
柴田政利 88
柴田穂 26,27,50,54,55,58,67,71,80,
81,119

嶋倉民生 98,112
しまねきよし 38,39

清水徳蔵 56,108

志水速雄 56,57

清水正夫 33

清水学 104

清水稔 112

清水安三 102

志村嘉一郎 103

下河辺淳 73

下平正一 22,23

下村武彦 84

朱世紀 123

朱文琳 44

朱養民 80

朱良 58

周令飛 90

涂阿玉 120

白井久也 9

白鳥芳郎 74

沈醉 75

す

菅沼正久 34,40,92

菅野俊作 104

杉野明夫 92

杉山市平 93

杉山正三 22,23

杉山信三 109

鈴木明 19,20,116

鈴木勝比古 65

鈴木健次 74

鈴木修次 110

鈴木正 38

鈴木肇 74

鈴木弘道 102

鈴木陽一 69

住田良能 58

スィーザー, M, ポール 97

せ

関寛治 4,18

瀬木博道 106

関嘉彦 57

関口和夫 39

関野英夫 27

薛明 74

瀬戸内寂聴 119

泉青 100

全富徳 48

そ

蘇紹智 48

宋重陽 30,41

相浦 100

副島種典 76,82,83,87

曾野明 52

曾野綾子 56

セルデン, M 62

ソボロフ, B 44

た

戴国輝 16,69,71,75

大曲直 48

高市恵之助 105

高木桂蔵 28

高島俊男 76,89

高田富佐雄 56,57,58

高橋磯一 90

高橋正 105
高橋俊男 82
高橋紘 26
高橋正雄 48
高橋勇治 79,80,84
高島通敏 18
高原七朗 77
高松基之 104
高峰秀子 18
多賀谷真稔 24
田川五郎 107,112
田川誠一 6
滝沢毅 122
滝田賢治 37
田口富久治 79
田久保忠衛 49
竹内実 3,4,5,6,7,8,67,69,70,71,72,
73,74,96,109,118
竹内好 39
武田清子 61
竹中芳 34
武吉次郎 93
竹村好夫 117
田尻育三 117
立木洋 65
立間祥介 102
田所竹彦 3,4,9,10,14,15,16,62,63,
101
田中信行 93,94
田中美知太郎 118
田中祥之 87,88
谷川徹三 62
谷原順夫 83,86
谷村新司 120
田能利忠 110,112
田原総一郎 68
玉川しんめい 39
田村紀雄 124

団野信夫 5,15

ち

地勢丹 74
中央日報 44
中国を考える会 115
鳥居民 50
張旭成 45
張敬文 46
張世潮 34,39
張超英 49
丁望 69,70
張宝之 39
張宝樹 56
陳郷 5
陳慶 44
陳鼓應 75
陳若曦 72
陳舜臣 3,4,25,27,67,115,116,118
陳裕清 48
チタレンコ, M 41
チャン, H, パリス 110

つ

津上忠 66
塚本勝一 10
塚本隆敏 83,86
塚本三夫 66
津久井龍雄 31
佃実夫 39
辻康吾 30,31,32,33,36,61,62,63
辻村明 56
土川庄市 18
津村喬 38
都留重人 9
鶴見和子 38
鶴見俊輔 18

て

邱永漢 74
程映湘 51
鄭竹園 44,45,46,48,105
程明群 58
寺尾五郎 31
田駿 45
田英夫 22
テムチェンコ, M 45
テリル, ロス 73

と

杜光 70
土井正行 15
刀光 105,106,107
東京外国語大学現代中国研究会
69
鄧小平 43,46,55
藤堂明保 26
徳田教之 5,105
徳武敏夫 87
徳永淳子 84,85,86,87,88,89,90
戸田杏子 38
戸張東夫 80,81,82,85,89,90,103,
104,108,109,110,111,112
富森叡児 7
戸村一作 31
伴野剛 10
伴野朗 10,26,51,72
豊田恭子 85

な

内藤昭 29
内藤雄三 51
中邦仁 116,117
永井昭夫 85
永井陽之助 69,71,72,99
中内功 119
中岡哲郎 8

長岡弘芳 24
中兼和津次 62
中川融 6,59
中嶋嶺雄 4,5,8,14,15,24,26,27,36,
41,50,51,52,54,55,56,57,58,59,
62,63,67,68,69,72,73,74,75,78,
81,85,99,118,120

永末英一 70
長田弘 18
永野英身 32
永野信利 51,75
中野美代子 96
中村公省 32,68
中村悟郎 82
中村茂 24
中村義 62
中村ふじゑ 39
中村義人 76
中村龍平 26
永山三郎 14
中山敏雄 30,34
中山弘正 60
長山義男 48,49,109
長山義勇 109
鍋嶋敬三 61
成田知己 22,23
成田良雄 81

に

新島淳良 31,34,51,123
西義之 52,53,56
西川潤 62
西川博史 13
西平重喜 48
西村明 29
西村幸次郎 29
西村多聞 7
西村肇 73

ぬ

抜山映子 119

沼田朗 84

の

野上正 5,6,101,102,107,108,109,
110,111,112

野口達二 72

野坂洋子 77

野沢渉 63,64

野村浩一 4,61,63,64,96

野村祐一 10

は

馬漢宝 47

萩本晴彦 72

萩原耕吉 78

萩原延寿 68

狭間直樹 107,110

橋川文三 68

羽柴駿 32

橋本堯 76,82

橋本広文 89

橋本峰雄 97

長谷川慶太郎 27,51,118

波多野宏一 6

波多野善大 102

花井浩司 23

花野敏彦 11

花山勉 39

浜勝彦 3,31

原後山治 11

針生誠吉 11,29

林郁 20,21

林慧児 58,110

林健太郎 51,120

林三郎 46,56,57

林修三 56

林青梧 109

林高之 79,80,81

林丈人 27,28,64

林理介 62,100

早瀬敏 50

葉山水樹 118

原覚天 103

原子林二郎 42

坂野正高 61,109

パラグラフ, G 13

バンス, サイラス 55

ハント, ケネス 72

バーチェット, W 31

バタフィールド, F 121

ひ

日高六郎 31,96

姫田光義
76,77,81,82,86,87,103,106

檜山久雄 33

平井友義 60,62

平岡正明 31

平野絢子 29

平野日出雄 75

平松茂雄 100,109

廣川浩然 49

広瀬昇 85

ビドフ, A 47

ヒントン, W 31

ふ

福島正夫 94,95

福島洋子 78

福武直 61

福間知之 24

富士正晴 96

藤井五郎 77

藤井治夫 33

藤井満洲男 30,31,92,93,94,95

藤崎萬里 55
藤崎康夫 30
藤田勇 76,80,88
藤田博司 37
藤村信 62
藤村俊郎 95,97
藤原康晴 29
船橋洋一 10,14
古川万太郎 5
古島和雄 102
古田元夫 80,82
プロワイエール, C 51
プロワイエール, J 51

へ

ペトロフ, A 45

ほ

法眼晋作 55,56,70
朴錫均 44,47
星野伊佑 111
星野力 65,66
細谷千博 37
本田靖春 20
ポリソフ, O 48

ま

前田常作 73
前田利昭 102
前田寿夫 100,107
『マスコミ』を考える会 44,45
町田章 14
松井章 100
松井やより 69
松尾文太 117
松岡洋子 32
松田昭次 77
松田正次 85,86,88
松永義衛 76,77,78,79,81,82,83,84,

85,86,87,88,89,90
松野操平 117
松野谷夫 10,11,12,13,14
松宮英三 62
松本昭子 79,82,84,85,86,87,90,91
松本英幻 111
松本清張 68,74
丸毛忍 43
丸山伸郎 105
丸山昇 76,78,79,83,108
真山実 65
マルロー, アンドレ 17

み

三浦一夫 65
三浦つとむ 30,31
三尾忠志 99,101
岬暁夫 32
三沢二郎 93
三品鼎 101
三島朋之 76
水上勉 18
水沢透 16
水原明窓 26
溝口貞彦 88,90
三田村泰助 67
三岡健次郎 118
三留理男 17
南道明 69
三野昭一 89
宮川寅雄 73
三宅正樹 103
宮崎市定 96
三好徹 71
ミソフ, フランソワ 72

む

向山寛夫 107
武藤一羊 38

武藤光朗 56,57
村井吉敬 34
村上薫 96
村田茂 34,35,111
村松暎 68,70,104
村山孚 109

も

毛沢山 46
毛里和子 37
本橋渥 101
森恭三 4,18
森川忍 94
森田明彦 37,68,69
森田勝巳 80
森永和彦 41,42,44,45,46,47,48
森本英之 14
森本良男 63
守屋洋 31,99,108,109,111
モイラー, F 50

や

矢次一夫 57
柳田謙十郎 76,85
矢野暢 72,73
矢吹一夫 73
矢吹晋 4,22,23,24,30,31,34,60,63,
74,75,106
山内一男 5,8,31,34,62,74,93,94,95
山川暁夫 33
山極晃 62
山口明子 34
山口正之 66,77,78,79,80,82,83,84,
85,86,87,89
山口淑子 15
山崎聡 84
山崎太喜男 48
山地進 92
山下隆一 6

山田辰雄 110
山田康博 37,101,108
大和海山 26
山中恒 16
山本明 6
山本薩夫 86
山本剛士 99,107
山本展男 64
山本秀夫 106
山本満 70

ゆ

湯浅赳男 30
湯浅誠 111
柚岡一禎 82

よ

楊杏庭 123
楊鑫基 75
葉洪生 46
姚文彬 58
横澤泰夫 109
横堀洋一 72
横松宗 113
横山宏章 88
横山宏 61
吉川幸次郎 96
吉川忠夫 96
吉川祐子 117
吉田健三 109
吉田富夫 29,34
吉田知子 20
吉田直哉 119
吉田光邦 56,57
吉田実 3,5,6,8,10,11,15,17,18,19,
20,95
吉武成美 89
吉本隆明 72
吉村公三郎 17

吉村徳蔵 90
米沢英夫 77
米沢秀夫 78,79,80,84,85,89

り

李嘉 75
劉曉梅 47
柳春生 88
劉真中 48
劉心武 120
劉青 88
林景明 34,115,116,117,119,120
リカルド, ルネ 78

れ

黎洪 83
連根藤 31

ろ

蠟山芳郎 32
ロジャース, ブリンクリー 67
ロヒオ, W, S 81

わ

若林敬子 106
若松重吾 8,27,55
早稲田大学中国研究会 85
和田一夫 66,78,81,83,88
和田武司 25
和田春樹 31
渡辺一衛 39,86
渡辺俊彦 78,79,80,81,84,86,88
渡辺長雄 101,107
渡辺襄 84
渡辺基 83,87

編集委員会

青野繁治（言語文化研究科），許衛東（経済学研究科），鄒燦（国際公共政策研究科），思沁夫（グローバルイニシアティブ・センター），田口宏二郎（文学研究科），高田篤（法学研究科），高橋慶吉（法学研究科），瀧口剛（法学研究科），田中仁（法学研究科），堤一昭（文学研究科），豊田岐聡（理学研究科），宮原暁（グローバルイニシアティブ・センター），三好恵真子（人間科学研究科），山田康博（国際公共政策研究科），林初梅（言語文化研究科）

転換期中国政治論説記事索引 (1976-1982)

2019年4月20日発行

編者 田中仁・和田英男・岡野翔太

OUFCブックレット 第13巻

<http://www.law.osaka-u.ac.jp/~c-forum/booklet.htm>

ISSN 2187-6487 (オンライン)

大阪大学中国文化フォーラム事務局 (c-forum@law.osaka-u.ac.jp)

560-0043 大阪府豊中市待兼山町 1-6 大阪大学法学研究科内